

LA REVUO ORIENTA

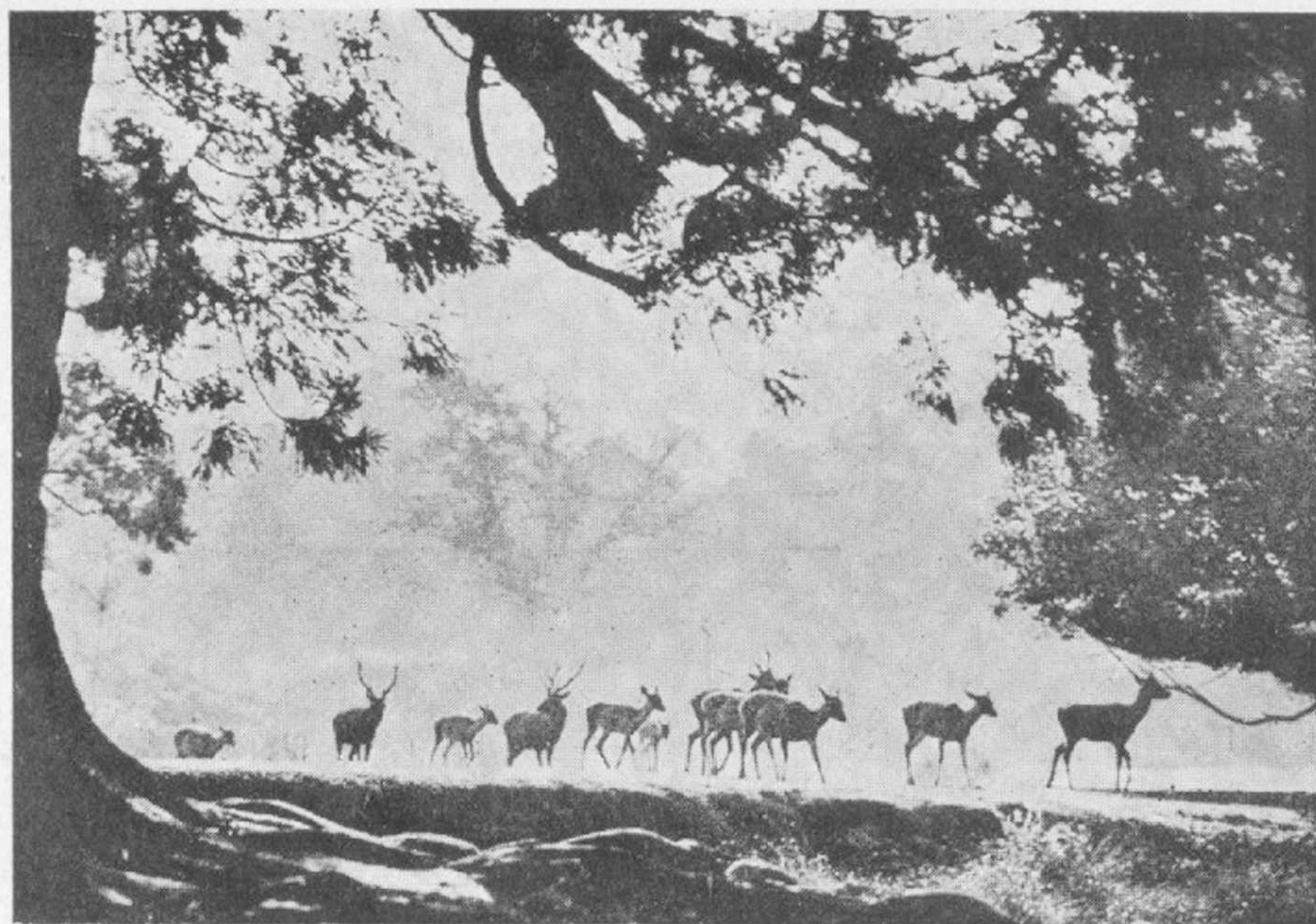
9 3 7

ARO XVIII

I - R O 1 0

OKTOBRO

Malsovaĝaj cervoj en Nara Parko



APANA ESPERANTO-INSTITUTO

卷頭言	久保貞次郎	359
我々は日本の良心に最大の望をかけよう	竹内藤吉	360
學校に於けるエスペラント教授の統計	伊藤巳酉三	361
Pri la „Originala Verkaro“	W. Bailey	362
動詞 EARI の用法	小坂 狷 二	367
„Ekzercaro“ 中の句讀點の用法	岡本好次	371
Plimulte Pri Esperantaj Etimologioj	藤田 穂 三	379
Bela, Bona, Uzo, Muzo!	伊非迂老人	384
「大會規約神戸案」に關する私見	相澤治雄	385
全國各地報道		388
後援會報告——文筆家問ひ合せ回答		391
第二十五回日本大會 Bulteno (2)		396

我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關

財團法人 日本エスペラント學會

東京市本郷區元町一の一三

—【電話小石川(85) 5415 番——振替口座東京11325番】—

目 的	エスペラントの普及、研究、實用
事 業	(a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表 (b) 雜誌及圖書の刊行及外國エス語書籍の取次 (c) 講演會講習會の開催及後援 (d) 其他本會の目的を達成するに必要な事業
會 費	(a) 普通維持員 年額2圓40錢 (b) 正維持員 年額3圓 (c) 贊助維持員 年額5圓 (d) 特別維持員 年額10圓以上 (e) 終身維持員 一時金100圓以上
維持員へは	La Revuo Orienta を無代配布する他當會取次洋書の割引等をなすことあり
本 會 の	普通維持員を除く他の維持員はすべて國際エスペラント聯盟 (IEL) の普通會員 (simplo membro) となる
入 會 手 續	住所 職業 姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい

會則及發行及取次内外圖書目錄要郵券二錢

役 員 名 簿 (五十音順)

理 事 長	大石 和三郎	同 東郷部長	土 岐 善 磨	理 事 (當任)	三 石 五 六
理 事 元 東 北 大 總 長	井 上 仁 吉	同 醫 博	西 成 甫	同 ()	美 野 田 琢 磨
	井上 萬壽藏	同	藤 澤 親 雄	監 事 醫 博	鈴 木 正 夫
同	上 野 孝 男	同 監 督 局 長	前 田 穰	同	堀 眞 道
同 (當任)	小 坂 狷 二	同 醫 博	望 月 周 三 郎	同	清 水 勝 雄
同 中 大 教 授	川 原 次 吉 郎	同	柳 田 國 男	高 女 校 長	丸 山 丈 作
同 文 博	黒 板 勝 美	同 (當任)	大 井 學	顧 問 法 博	樫 積 重 遠
同 觀 光 局 長	田 誠			同 子	三 島 章 道

日本語の進歩のために

9月17日の閣議で日本ローマ字の綴方が正式に決定されて、内閣訓令として各官廳に通達されることになった。これは日本式ローマ字が正式に認められた譯で、今後官廳文書に掲載するローマ字や、國鐵の驛名等追々日本式に書き換へられると云ふ。大いに喜ぶべきことである。

しかしローマ字の綴方が不統一であつたのが統一されたからといつて、すぐ毎日の新聞がローマ字で書かれる譯でもなく、雑誌にローマ字の頁が澤山ふへるといふ約束でもない。だが、内閣で、ローマ字綴を一定したといふ事實は、ローマ字が段々一般の生活に使はれてゐることを反映してゐるのである。「ローマ字は殆ど常識化して、多くの種類の商品のレツテルにも用ひられて居り、ローマ字の讀めないことは追々假名が讀めないことゝ同様な不便を伴ふことになりさうである。これはあながち舶來品を装ふためばかりでなしに、日本の商品の海外進出の勢にもつれて發達した傾向であらうと思ふ。」(「小學兒童にローマ字を。」女の立場から。讀賣、9月23日)かうした勢が、政府をして、綴字の統制を決定させたのであらう。

さて、そこで合理的である日本式ローマ字に一定されて、これから我國にローマ字が一層普及することが好しい。しかし勿論、ローマ字の普及は、ローマ字綴だけを世間に廣めたからといつて、すぐ目的が達せられるものでない。そのためには、ローマ字運動が當然その一部を背負はなければならない、日本語の改革が横はつてゐる。

漢字の代りにローマ字を置き換へただけでローマ字運動の目的が達せられるものでないことは、ローマ字運動者が一番よく知つてゐる筈である。そこで「コトバナヲシ」をやる。しかし實は漢字で書かれた日本語を即座にローマ字に移したのでは意味が混同し不明瞭になるから、そのために日本語を改革するのではない。日本語みづからが、もうあの難しい漢語口調には耐へられないのだ。あの漢語混りの日本語は決して、一般國民の生きた日本語ではない。

私達は田舎で働いてゐる人々、その家族達の間で交される會話が實に生き生きした、力強い表現をもつてゐることに驚くべきだ。都會で標準語として語られたり、書かれたりしてゐる言葉が、表現が死んでをり、弱々しいのはどうしたことだらうか。

そして更にローマ字によつて日本語が改良される場合に、たゞ語彙の改良ばかりでなく、更に一步進めて、日本語の文脈等にまで手を加へることが望ましい。勿論、日本語は日本語自ら、いくつかの長所をもつてゐる。例へば性のないこと、音韻の單純なことなど、其他擧げることが出来る。しかし同時に千遍一律さ、又表現能力が低いことなどは、氣をつけて考へると、絶望的に悪い。

ローマ字の普及は、新しい日本語の普及であり、それは大衆的な日本語の進歩であり、よりよい日本語を創ることである。そして日本語の進歩のための仕事をローマ字運動者だけに任せてよいといふことはない。明らかである、私達國際語運動に従つてゐる人々が、これに協力することは。すでに今年の本誌4月號の卷頭で述べた如く、新しい日本語の生命を吹き込むのに、

合理的な國際語 에스ペラントがどの位役に立つかは、將來の私達の力によるところ頗る大である。カナ文字運動、漢字制限運動、その他國語國字の改良の仕事に活動してゐる人々も當然この仕事に熱心に參加すべきである。そして、日本の生き生きした國語を創り出すために、お互が協力して困難を切り開いて行かねばならない。

—Sept. 25, 37. 久保—

我々は日本の良心に最大の望をかけよう

Tokiichi TAKEUCHI

なるほど今日まで我政府によつて 에스ペラントは採用されて居ないが、それとて必要な調査もせず、具體的に材料をそろへて政府に提案もしなかつた 에스ペランチスト自身の怠慢にも罪はある。

我國は今國際語問題に上下の關心があつまる時に立てゐる。英語教育の普及とは逆に各國の玄關だけで語られる偽國際語、英語だけでは不足な事がわかり支那、蒙古、印度、佛、西等の各國語學習の必要を痛感して、もはや國內で知らなくてもすむ英語を一般國民に必修させる事の無益な事を氣づいてきた、近來しばしば開かれた國際會議で自國語の權威も國家の尊嚴も無視されて只一國語が君臨するのを見聞しては自分が英人なみにしやべれる事に満足した人も自國の力を自覺した國民は等しく國辱的醜態であつたと考へた。とはいへ今後日本語を以て國際會議に君臨する事が出来る日が來ても日本の良心は、英語にかへるに日本語を以てしたのでは問題の解決とは考へ得ないだらう。只 에스ペラントの採用を決定する以外に國際正義にかなう解決はあり得ぬ。尙又最初に 에스ペラントを採用する名譽を勝ち得る國家は他國を領有する野心なき獨立自在な國家でなければならぬ、それは日本より外にはない事は三宅雪嶺先生の云はれた通りである。

日本は今 에스ペラントを採用する事が出来る。我國の英語教育は英語活用者と他の外國語入門者との爲であるが學習者の半數以上がそのどちらをも必要としない單なる教養として學ぶ、それ等の人々には英語でなければならぬ必要は少しもない、二年間 에스ペラントが教へられる事になれば外國語を必要としない人は 에스ペラントにさらに老熟するだけでよい事になる。

しかし我々の前には大きな障礙がある、それは今現に社會の要職にある大部分の人々は英語によつて近代的教養を受け、英語の中に生長された人々であるから情にをいて英語よりよい近代語はないと信じてをられ、英語を知らなければ國際社會に活動されないと信じてをられる。これ等の人々に第一外國語として 에스ペラントを教へても五年間には同等以上の英語の活用力を得させる事が出来英語習得者の數を減少しない理由が一目でわかる正確詳細な英エス對照表を作製して示さねばならぬと思ふ。

エスペラントは僅か 10 年間に驚くべき發展をとげたとはいへ、今の國際情勢では貿易に利用すると云ふ事も不可能であるし、讀書をするにも多くの本が得られるわけでもないが、萬人の第二言語として、言語理解の教材としての利用價值は 에스ペラントにならぶものがない。今我國がこれを取上げてくれれば、10年後には一切の國際會議に 에스ペラントを公用語としてのぞむ事も出来、又海外の日本研究者たちに日本語に次ぐ豊富な文獻を 에스ペラントで提供することもできよう。實に 에스ペラントは我國が採用を決定する時始めて重要な言語となる。故に我々のあらゆる力を只國家がそれを取上げるに必要な諸準備に集中すべきであらう。

學校に於ける 에스ペラント教授の統計

Kjuzo Ito

學校に於ける Esp. 教授の問題は我々にとつて最も重要な使命の一であるが、殊に最近この問題に就いて論議が盛に行はれ今春開かれた國際會議 Eeperanto en Moderna Vivo でも第一部として扱はれたことは既に報じた所である。

この時に當り、米國に本部を置く IALA (國際補助語協會) の協力部の主任 f-ino Marta Moelke は 1927 年 10 月 1 日から 1936 年 12 月 31 日までの約 10 年間に記録せられた材料に従つて作られた興味ある統計を発表した。

表の第一列は Esp. を教授し或は講習を開いた學校の數、第二列は Esp. を知つてゐる教師の數、第三列は同部が通信の機會を與へた教師の數、第四列は同部が通信の機會を與へた生徒の數である。

アフリカ	—	1	—	—	イタリー	40	148	3	73
アルバニア	—	1	1	—	日本	32	56	8	48
アルジェリア	—	6	3	—	ユーゴスラビア	9	121	6	5
イギリス	48	418	9	339	カナダ	—	15	—	—
アルゼンチン	—	11	7	—	カナリア群島	—	2	—	—
アルメニア	1	—	—	—	朝鮮	—	3	—	—
オーストラリア	—	9	—	—	キューバ	—	6	—	—
オーストリー	49	393	12	134	ラトヴィア	8	69	8	—
ベルギー	5	157	2	11	リトヴィア	7	82	13	—
ボリビア	—	1	1	—	マダガスカル	—	2	—	—
ブラジル	116	62	2	21	マルタ	—	2	—	—
ブルガリア	10	206	6	3	モロツコ	—	1	—	—
キプロス島	—	2	—	—	メキシコ	—	1	—	—
チェコスロバキア	56	535	19	90	オランダ	28	448	21	68
チリー	—	3	1	—	蘭領印度	1	11	1	—
支那	12	18	3	1	ノルウエー	6	491	2	8
デンマーク	14	256	22	15	ニュージーランド	1	13	—	—
ダンチツヒ	1	11	—	—	パレスチナ	—	1	—	—
エヂプト	1	16	—	—	ペルシア	—	2	2	27
エクアドル	—	1	—	—	ポーランド	70	449	9	148
エストニア	12	228	5	28	ポルトリコ	—	1	—	—
フィンランド	10	90	4	18	ポルトガル	1	6	—	3
フランス	43	278	59	4843	ルーマニア	7	124	1	1
ドイツ	407	2274	105	962	ロシア	97	385	48	2518
ギリシア	2	4	2	64	シリア	2	1	—	—
グアテマラ	—	1	—	—	スコットランド	3	45	—	—
ハワイ	2	1	—	—	スウェーデン	12	621	44	189
インド	—	6	1	7	スイス	7	72	1	—
インド支那	1	8	5	15	タスマニア	—	1	—	—
スペイン	7	94	6	14	トルコ	2	3	—	—
ハンガリー	8	123	3	35	ウルグアイ	—	5	—	—
イラク	—	1	—	—	北米合衆國	2	142	2	67
アイルランド	1	18	—	—	ヴェネズエラ	—	1	—	—
イスラランド	1	1	—	—	計 67	1142	8564	447	9755

遺憾な事は之等の數字が如何にして集められたか、正科として課した學校の數、隨意科とした學校の數、學校の種類等が不明な點である。又之等の數字が何の程度まで正確であるかも問題である。併し、斯る統計がエスペランチストとして作られたものでなくて、種々の國際語に中立の立場を持する IALA によつて作成され發表されたといふ事實は注目に値すると言へよう。

Pri la "Originala Verkaro"

(Kvara Parto)

W. Bailey. L. K.-ano

262. 25-26. *estus ankoraŭ pli, ankoraŭ multe pli feliĉa*
 39. *iam la lingvo*
263. 4. *forigu komon post kondiĉo*
 6-7. *Pli bone estas iri laŭ vojo, kiu alkondukos nin al la celo pli mal-*
 P. 248. 1. 5, 26, 28, 31, 44. *Esperantisto(j)*
 28. *de longe*
 34. *famo anst. faro*
249. 6. *mian projekton ne dise (t.e. ne kursive en La Revuo)*
 8, 12. *Esperantistoj*
 40. *ekzamenitan*
250. 16. *forigu komon post lumo*
251. 10. *pri Esperanto aŭ fari ian alian uzon de Esperanto, kaj mi...*
 36. *forigu komon post mi*
 45. *forigu komon post eblon* } (Kiel mi jam diris, la redaktoro sisteme aldonis ne-Z.'ajn komojn antaŭ infinitivoj.)
252. 24. *la rajton eldoni*
 26. *Esperanta; forigu komon*
 27. " "
 28. " "
 37. *komo post bona*
253. 18. *prosperos*
 39. *forigu komon post unuecon*
254. 2. " " " *plimulto*
 3, 15, 32, 33, 34, 41. *Esp....*
 32. *Institucioj*
 39. *kongresa*
255. 10, 27. *forigu komon post rajton*
 15. *Esperantistoj*
 32. *Ĉi anst. Ĉiu*
44. *respondus; (tia us kun negativo estas sistema ĉe Z., tamen multaj Esperantistoj tion ne rimarkis.)*
259. 2, 7, 35. *"! anst. !"*
 5. *absurdo; respondos*
 21. *ke la efektiviĝo de la sankta ideo ne sole estas tute ebla, sed ke al tiu ĉi efektiviĝo ne...*
 22. *malproksime*
 33. *forigu komon (ne en la gazeto, tamen tute konforma al la Z. sistemo)*
 44. *forigu la noton; la teksto havas interkomunikigon!*
260. 1. *forigu komon post tiam*
 13. *antaŭ la Volapük*
 34. *renkontis malamikojn, kaj ankoraŭ malamikojn ne pasivajn, (kiel ĉe 227/25.)*
 43. *presejon (kiel ĉe 227/33.)*
261. 13. *Volapük, baldaŭ transiris sur la flankon de Esperanto, malgraŭ ke ili estis jam forte kunligitaj kun la Volapük, jam multe laboris por ĝi kaj...*
261. 14. *forigu komon post pretaj*
 27. " punkton " libron
 28. *komo post ke*
 30. *forigu komon antaŭ k2. (vidu la rimarkon pri 259/33.)*
 32. *ian anst. iun*
 33.). anst. .)
 40. *metos*
 43. *karaktero*

256. 2. forigu komon
11. *formojn kaj vortojn, kiuj*
256. 27. *ne deviga*
41. ; anst. :
257. 29, 35. La U. E. A. gazeto havas
dezirus, B. E. *deziras*; kredeble
dezirus estas ĝusta.
32. ; anst. :
258. Laŭ la Z. modeloj la titolo devus
esti *Traktatoj*
16. *propagandu*
43. *Ĉu tiu ĉi dolĉa*
rapide,—sed iri kune kaj unuanime,
—ol serĉi ĉiufoje novajn vojojn nur
tial, ke al ni ŝajnas, ke tiuj ĉi vojoj
alkondukos nin al la celo pli rapide.
11. *kondukas*
28. *laŭtaj* anst. *laŭdaj*
30. forigu komon post *jaroj*
33. *Volapükistoj*
34. *tiel* anst. *tial*
36. *Sed eĉ nun ankoraŭ, kiam la batalo*
ricevis jam formon tute alian, kiam
la nombro...
38. *pro* anst. *por*
264. 5. !! „ !
19, 31. *Volapükistoj*
25. *do* anst. *la*
264. 38. *donos*
41. *penas*
44. *trovos*
265. 7, 16. *Volapükisto(j)*
8. forigu ambaŭ komojn (vidu la
rimarkon pri 259/33; en tiu frua
tempo (1889) Z. ankoraŭ ne tute
fiksige la uzadon de komoj en tiaj
okazoj)
10. forigu komon
37. „ „
266. 3. *tio* anst. *tiu* (tia *por tio*, uzita
kelkfoje en la plej frua tempo de
nia lingvo, havas la sencon de
kontraŭe, aliflanke, kvazaŭ *kompense*
por tio. Alia ekzemplo troviĝas ĉe
F. K. 49/26.
5. forigu komon post *tio* (vidu pri
259/33)
7. forigu komon post *ĉio* (vidu pri
259/33)
10. *Volapükistoj*; forigu komon post
kulpigu (vidu pri 259/33)
28. forigu komon post *diri*
43. *jam* anst. *iam*
267. 6. forigu komon post *ĵ* (vidu pri
259/33)
10. *Ruso*; *Rusoj*
13. *Rusoj*
15. *Ruson*
26. komo post *u*
31. *la Volapük'on*
35. *arte* dise presita
268. 7. forigu komon post *preta* (vidu pri
259/33.)
268. 32, 33, 44. *Volapükistoj*
269. 31. „
14. *ni* anst. *mi*; forigu ¹ (vidu pri
1. 44)
23. forigu komon post *sciis* (vidu pri
259/33)
15. *freneza* en la teksto, tamen devus
esti *frenezan*
44. forigu la noton; la teksto havas
tiam; la arkaikaj formoj troviĝas
nur sole en la Dua Libro!
270. 1. forigu komon post *ne*
18. *renegatoj*
22. *ne sole ne eltiris* (eraro ankaŭ en
la gazeto)
25, 29, 36. *Volapükistoj*
271. 29. „
272. 6. *ol ili* ne devus esti presita dise.
26. forigu komon post *postulataj*
(vidu pri 259/33)
28. forigu komon post *laboron* (vidu
pri 259/33)
29. forigu komon post *sin* (vidu pri
259/33)
30. *Volapükistoj*

32. forigu komon post *Volapük* (ĉi tiu komo *ne* estas laŭ-Zamenhofa)
38. *alportas*
40. *alia* — : *anst alia* : — ; *tuta* anst. *tute*
273. 9. forigu komon post *volos* (vidu pri 259/33)
14. *afero*. “ *Vi vidas* (ĉi tiu “ signas la finiĝon de la citita frazo, kiu komenciĝas en la 9a. linio.); *Volapükistoj*.
17. *ŝajna* dise presita
19. *vera* „ „
27. *Volapükistoj*
273. 33. forigu komon post *deziris* (vidu pri 259/33)
34. forigu komon post *mallongaj* (ĉi tiu komo *ne* estas laŭ-Zamenhofa)
274. 3. forigu komon post *ridinde* (vidu pri 259/33)
6. forigu komon post *leĝojn* (vidu pri 259/33)
12. *Volapükistoj*
26. *la kondiĉon de mallongeco estus ja eksterordinare facile, se tio ĉi estus efektive la klara intenco de*
30. *Kiel* ankaŭ en la gazeto, tamen devus esti *Kial*
275. 3. *dusilabaj en Volapük povus kuraĝe esti anstataŭita per unusilabaj kaj la vortoj*
23. forigu komon post *pensas* (vidu pri 259/33)
277. 6. *eltiras* anst. *altiras*
280. 16. *egalpezon*
281. 28. *nomos*
282. 25. komo anst. ;
44. la eraro estas korektita en la sepa eldono de F. K.
284. 5. forigu komon post *kalkulon*
286. 26. komo post *tabuloj*
287. 35. *formo* dise presita (t.e. kursive presita en F. K.)
43. *dubus*
288. 6. *signifus* ; eraro en F. K. p. 284; supozeble ĝi ankoraŭ troviĝas tie; almenaŭ en la 14-a eldono (1933) ĝi restis ne korektita.
24. forigu *ne* post *rutino* ; eraro en la pli fruaj eldonoj de F. K., korektita en la sesa eldono.
36. *kiamaniere*
42. *kia* dise presita (t.e. kursive presita en F. K.)
289. 2. forigu komon post *atendi* (vidu pri 259/33)
37. forigu komon post *ke*
290. 34. *Esperantan*
38. *Europa*
40. *Eŭropanoj* ; *Amerikanoj*
291. 1. “ ! anst. ! ”
8. ĉe anst. la dua *de* (eraro ankaŭ ĉe F. K. 288/12; ne la lernanto postulas.)
17. *Esperante*
19. *Esperantan*
22. *Ĉiu*
32. *gvidadis*
292. 28. *Kiel*
31. *ĉiuj* dise presita (t.e. kursive presita en F. K.)
294. 1. forigu komon post *eraron* ; *jam nur bezonas*.
6. *nur* dise presita (t.e. kursive presita en F. K.)
8. *ĝi estas multajn, multajn fojojn*
295. 10. *rilatis*
15. *Leitnitz*
298. 22. *sensencaĵon*
38. *konsistos plene el*
39. forigu komon post *ideo*
300. 10. *restos*
19. *kia* anst. *kiam*
301. 1. *tion* „ *tio*
19. *kaj ke sekve se* (sen komo); *ĝi el la jam ekzistantaj*
- 29, 34. *Volapükistoj*
35. *Amerika*
316. 37. *pro tio* anst. *por tio*

317. 11. forigu komon post *rajton*
 15. „ „ „ *homo*
330. 4. *mahometanoj*
333. 42. *estos*
335. 41. *Li* anst. *li*
339. 11. forigu komon post *rajton*
 32. komo post *sciu*
 36. ; anst. :
340. 23. *mondo* anst. *lando*
342. 3. forigu komon post *unuigilo*
 5. *nenian* anst. *neniam*
 33. *ma'ami moki aŭ persekuti*
 36. forigu komon post *konscienco*
 37. komo post *ĉefa*
343. 9. *sengenta* anst. *samgenta*
 10. *povos* „ *povas*
 27. *Brita Esperantista Asocio*
344. 1. *je* anst. *de*
 16. forigu komon post *liberecon*
 18. komo post *more*
345. 8. „ „ *mi*
 9. „ „ *gento*
347. 7. *Japano* ; *Franco*
348. 2. *Afrika* ; *Eŭropa*
 5. *Afrikanoj*
 8. *Afrikanoj* anst. *afrikanaj*
 15. *Eŭropaj*
 17. *Egiptujano* ; *Japano* ; *Eŭropano*
 21. *Afrikanano* ; *Aziano* ; *Eŭropano*
 22. *Japana*
 23. *Eŭropa*
 24. *Japanoj* ; *Eŭropanoj*
349. 9. *pra-praavoj*
 32. *Ruson*
 33. *Rusoj*
 34. *Rusajn*
 35. *Ruso*
353. 20. *pie* anst. *plie*
354. 4. punkto anst. ? La farzo tute ne estas demando; la senco estas: Kiam... mondon, *tiam* kunvenos...
355. 22. *portas* anst. *portos* (kp. 340/22)
356. 17. *k. t. p.* „ *ktp.*
359. 24. *Fonografa* anst. *Gramofona* (kp. 1.
- 30; en tiu jaro gramofono ankoraŭ ne ekzistis)
361. titolo. *Fonografa*
26. *kiuj* *havis* *ĉiuj* *egalan* *korpon*, *egalan* *spiriton*, *egalajn* *kapablojn* *egalajn* *idealojn*,
362. 2. *la nia* *dise*
 3. *de la* anst. *da*
 6. *nia* *dise*
 7. *ĉiuj* „
 8. *deziras* „
 9. *Tie* „
 12. *lian* „
 15. *nia* „
 17. *neŭtrala* „
 18, 19. *unu* „
 21. *fratoj* „
 28, 29. *homoj* „
363. 19. *perfekte* anst. *perfekta*
364. 26. forigu komon post *tempo*
 32. “*Lingvo Internacia*” *havas* *mondon*, sed *mondo* estas bona.
 37. *Tre* *granda* *kaj* *vasta* estas
 40. La fontoj *havas jam*, sed la senco nepre bezonas ankoraŭ.
365. 9. *Jozefon*
 27. *kredeble* *respektan*
 32. komo post *same*
 36. *antaŭ* anst. *inter*
366. 8, 10, 15, 30, 37, 38. *la* anst. *l'*
 10. forigu komon post *bonecon*
 11. „ „ „ *mi*
 12. *Ili* estas anst. *Estas*
 27. forigu komon post *personojn*
 31. komo post *horo*
 35. forigu komon post *decidon*
 36. komo post *diskutadojn*
367. 8. *sekvanta*
 9. komo post *laboro*
 32, 35. *la* anst. *l'*
367. 33. Mi ne kredas, ke Z. diris: *sen* *ke* *ĝi* *ricevu*; *kredeble* li diris: *volus* *akcepti*, *se* *ĝi* *ne* *ricevus*.
 36. komo *antaŭ* *kaj*; forigu komon

- post *vin.*
368. 6. *ne tute flue parolos.*
 20. *la tuta mondo*
 27. *en anst. al*
 43-44. *de vi ĉiuj nian koran dankon al la brava svisa lando kaj al ĝia registaro por la gastameco, kiun ili montris al nia Kongreso, precipe al lia Moŝto*
369. 4. *internaciaj kaj homunuigaj aferoj.*
 5. *forigu komon post ankaŭ*
 17. *parolon*
 23, 24. *pro triloke anst. por*
 32. *bataladon*
 42. *forigu komon post mi kaj post Bjelostok*
370. 17. *buĉado en Kaŭkazo*
 19. *komo post nur*
 21. *diversaj plej ruzaj kaj plej malnoblaj rimedoj*
 41. *de reciproka sinnekonado*
 43. *Esperantistoj*
371. 6, 7, 10, 12, 13, 14, 17, 19, 21, 22, 24, 25, 26, 27, 29, 30, 33, 40, 41. *E*
 11. *sole kaj ekskluzive*
 22. *forigu komon post econ*
 26. *komo post oficialan*
371. 29. *Esperantisto anst. persono*
 37. *sia „ nia*
372. 2, 32. *E*
 32. *unuaj „ nunaj*
 34. *ĉar ĉio parolis pri ĝi. Kial do aliĝis al ni kaj sindone kaj senprofite laboris kun ni la personoj, kiuj vidas en Esperanto "nur lingvon"?*
373. 2, 11, 30, 41, 42, 44. *E*
 9. *komo ĉe la fino*
 35. *estas anst. estis*
 42. *forigu komon post rajton*
374. 5, 11. *E*
 35, 40. *A*
 42. *B*
375. 4, 10, 37, 41. *E*
 10, 11, 18. *B*
3. *ankoraŭ anst. ankaŭ*
33. *komo post scias*
376. 6, 10, 11, 16, 18, 21, 24, 27. *E*
377. 11, 14, 24, 25, 27, 31, 35, 37, 42, 44. *E*
 40. *ia anst. la*
378. 1 (duloke) 2, 8, 14 (duloke), 20, 21, 23, 29, 41. *E*
 23. *Esperantujanoj*
379. 12. *E*
380. 24, 27, 30, 40. *E*
381. 4, 20, 21, 31, 33, 43. *E*; 17, 18, 24, 25. *B*
382. 38 (duloke), 39, 43. *E*
382. 4. *forigu komon post decidis*
 5. „ „ „ *la unua ĝi; fiksi anst. fiksis*
33. *jaroj da anst. faroj de*
383. 5, 22, 44. *E*
 9. *la ŝovinistoj*
384. 10, 23, 27, 35, *E*; 29, 32. *S*; 28. *G*.
 37, 39, *kiuj anst. kiu*
385. 4, 16. *E*
 9. *G*
 27. *batalantojn anst. batalontojn*
386. 18, 22, 29, 36, 39. *E*
 25. *kiun anst. kiujn*
 35. *dek kvar*
387. 22, 23, 34, 38. *E*
 44. *ke en anst. ke de*
388. 6, 21, 29, 36, 43. *E*
 30. *ne rompu; en tiaj frazoj ke egalas por ke; la malpermeso ekzistas, por ke oni ne rompu; komparu F' Krest. 63/18: ke ili ĝin desŝiru; 63/20: por ke la koto ĝin kovru. Pli bona (ĉar pli facile komprenebla por ĉiuj) estus: malpermesas al apartaj personoj rompi la lingvon arbitre.*
389. 1. *E*
390. 2, 4, 5, 10, 21, 22 (duloke), 25, 38. *E*
391. 8. *Hispana*
 22. *forigu komon post urbon*
 24, 40. *E*

392. 25, 27, 30, 31, 33, 34, 39 (duloke), 42. *E*
 28. komo antaŭ kaj post *tute egale*
393. *E* (5)
 10. *organizitaj*
 (26. *J. M. Warden*)
 40. forigu komon post *mi*
394. *E* (4)
 44. *Amerikanoj*
396. 14, 28, 29. *E*
 22. *unu* anst. *nun*
 34. komo post *fikcian*
397. 36. *preferas*
 37. *simpla*
 39. forigu komon post *vortoj*
398. 14. *dek ses*
 24. *E*
 27. *G*
399. *E* (4)
400. 8. *Amerikan*
401. *E* (9)
 8. *Ruse*
402. *E* (6); *R* (5)
 28. *povos* anst. *povas*
403. 2. *R*; *E*
 16. *E*
 25. *urbestro*
 27. *B*
 30. *grandegajn meritojn*
404. 15. *Volapŭke*
 23, 42. *E*
405. *E* (8)
 19. *havas* anst. *havas*
 20. *povos* „ *povas*
 30. forigu komon post *eblon*
407. 31 (duloke), 38 (duloke) *E*
 17. *elmetata al* anst. *elementa el*
 31, 38. *Angla*
 32, 38. *Hispana*
408. 2. komo post *ĵaroj*
 3. „ „ *verko*
 28. forigu komon post *feston*
409. 6, 31, 32, 34, 35. *E*
410. 5. *Mi* ne povas diri kun certeco, ĉu
tute en l. 5 devus stari antaŭ *egala*
 en l. 4.
E (7)
 40. *aperas* anst. *aperos*
411. *E* (6)
 6. *kvaronjarcenton*
 23. *en ĉi tiu grava*
 39. komo post *sento*
 43. *F*
412. (titolo super n-ro 16: *akceptis* anst.
estis akceptinta
 23. kredeble *daŭros* anst. *daŭrigos*;
 komo antaŭ *ĝis*
 38. *la tempon, por min prepari, por ke*
mi povu
413. *E* (7)
414. 4. *E*

動詞 FARI の用法

(18)

K. OSSAKA

§ 9. Derivaĵoj de FAR' [造語]

a. **FAR'O**=*farado* aŭ *faraĵo* (行動, 實行; 行ひ, 行爲, 所業)。La vorto „faro“ estas pleje uzata en la dua senco, t.e. en la duonkonkreta senco de „faraĵo“.

Kaj ĉio restas penso, sed ne **faro** (=farado). (H 76) すべて考だけにとどまり實行に至らぬ。

Por ĉiu **faro** estas horo. (P 860) 物事をするにはすべてそれを爲すべき時機と云ふものがある(物事は時を嫌はずすべきものでない)。

Unu, du, tri, kvar, kaj finita la **far'**. (P 1209) 一、二、三、四、それではまひ（手取り早く片附けること）。

Tro rapida **faro** estas nur baro. (P 585) 急がば廻はれ。

Faro (=faritaĵo) farinton rekomendas. (P 851) 行ひは行つた者を推薦する（やり方如何でその人の値打がきまる；Kia estas via laboro, tia estas via valoro と同意の諺）。

Se vi grandanime donos al mi la favoron, tiam tiu ĉi ŝuldiga **faro** akiros min por vi plene. (GD 44/14) 若し氣を大きく持つて私のお願いをきいて下されば、その有り難い御行爲で私は完全にあなたのものになりますわ。

Pro eraro ne praviĝas la **faro**. (P 259, 767, 961) 間違つてやつたのだと云ふ事はやつた事の云ひ譯にはならぬ。

Rimarko: En „Proverbaro 447“ ni legas: „Per eraro ne praviĝas la **faro**“.

La **faro** estis plenumita. (FIII 72/7) その通り實行された。

Pli valoras **faro** nenia, ol **faro** malbona. (P 841) 悪行よりも無爲の方がまだしもだ。

Ne valoras la **faro** la koston de l' preparo. (P 764) それは骨折り損だ。

Kiel min premas tiu ĉi **faro**! (Rt 66/7) こんなことをして寢ざめが悪い。

Ha, ĝi estas originala **faro**! se oni povus tion ĉi efektivigi? **Faro** senkompara! (Rt 37/-5) ウンこれはすてきな(奇抜な)事(行爲)だ、これがやり得さへしたならなア、無類の行爲だ。

Se ne plaĉas la najbaro, ne plaĉas lia **faro**. (P 1110) 坊主が憎くけれや袈裟まで憎い(隣人が氣に喰はぬとその行爲までも氣に喰はぬ)。

Maljunaj jaroj, sed ne saĝaj **faroj**. (P 553) 年は食つてゐるがやるこたまぬけ。

Vin ne tuŝu la eraroj en fremdaj **faroj**. (P 857) 人のやることに間違があつたとてお前の關係したことではない、餘計な狭匙(せつかい)せぬがよい。

Paroloj kaj **faroj** estas malsamaj aferoj. (P 842) 言と行とは別なもの。

Rapide iras la vortoj, sed ne rapide la **faroj**. (P 854) 言ふは易く行ふは難し(上例とほぼ同意味の諺)。

Ne rapidu kun vortoj, rapidu kun **faroj**. (P 856) 口が早いよりするが早いがい。

Estas bele ripozi de siaj **faroj**. (FIII 10/26) 仕事を一と休みするのはいいものだ。

Lupo ŝanĝas la harojn, sed ne la **farojn**. (P 279) 狼はその毛並をかへることはあつても行ひを改むることは出来ぬ(猫はかぶれても人柄は變らぬ)。

Konfido fine akirita post centoj kaj miloj da **faroj** de nekredado, pereus por ĉiam kaj jam neniam povus esti reakirita. (OV 382/32) 千萬の不信用の行ひを切りぬけてやつと獲得した信用も一朝にして消滅しもう二度と得られなくなる。

Mi vidis ankaŭ, ke ĉiu laboro kaj ĉiu akurateco en la **faroj** estas nur konkurado de unu kontraŭ alia. (Pr 11/9) 私はまた營々と仕事をやることや行爲を正確にやることはお互の競争に過ぎぬことがわかつた。

b. **FAR'AD'O**=faro en abstrakta senco, agado de faro. 爲す事、行ふ事、やる事；作ること。

Por eterne ripetadi „Tion ĉi vi faru“—kaj tamen resti sen **farado** (=ne farante), kiam por ĝi mi ne havas kaŭzon kaj la volon kaj forton kaj rimedojn por plenumi

(H 121/19) いつ迄も『お前がやれ』とくりかへして云ふだけ、それなのにそれに對してやりとげるべき謂はれもなく意志も持たず力もなく又術もないとなると自らは手をこまねいて(もしないで)居る。

La sufikso „il“ signifas instrumenton por la donita **farado**. (FK 247/10) 接尾字 **il** は該行爲をすることのための道具を示す。

c. **FAR'INTO** 爲した者、下手人。

e. **FAR'AJO, FAR'IT'AJO**=farita afero aŭ objekto 爲た事、作つた物。

Mi ne volas esti mem **farinto**, por ke la homoj ne ataku. (Rt 37/18) おれは自ら下手人になるのはいやだ、人が攻撃するといけないから。

Tamen neniu supozis en li la **farinton**. (BV 21/3) まさか彼がしたのだとは誰も思はなかつた。

Ŝi pripensis la **fáritaĵon** de la pasinta tago kaj ridetis kontente. (FK 147/19) 彼女は昨日の出来事(爲た事)を考へ合はせて満足氣にほゝえんだのであつた。

Oni ne sciis, ĉu ĝi prezentas monton kun arbaroj kaj kavernoj, aŭ ĉu ĝi estas **faritaĵo** de homa mano, (FIII 3/17; ank. vd. Re 4-28: faritaĵo de homaj manoj). そそは森や洞窟のある眞の山なのか或は人の手で作つたものかわからなかつた。

d. **FAR'IGO** 出来事、事件。

Eksterordinara **farigo**! (Rz 12/-6; ank. vd. FII 122/8) とてつもない事件だわい。

La kurantaj **farigoj** en la patrujo. (OV 315/6) 祖國現下の出来事。

Post tiuj **farigoj** la Eternulo diris al Abram en vizio jene: Ne timu, Abram, Mi estas via ŝildo. (Gn 15-1) それ等のことありて(起つた)後神はアブラムに宣つた: 怖れるなわれは汝の楯であると。

e. **FAR'EBLA**=kiu povas esti farata: やれる(なされ得る)、可能な。

f. **FAR'INDA**=kiu meritas esti farata, devas esti farata: 當然なすべき(なさるべき)。

g. **FAR'ISTO**=faranto 製造人; 實行家。

Tio ĉi estas **farebla**. (FK 64/-5) (やれ)ばやれることだ。

Konstrui sur ĝi sian ekzistadon fizikan, volvi ĉirkaŭ ĝi ŝpinaĵon de spirito tiel longan, kiel longa estas homa vivo, estas **nefareble** kaj **nefarinde**. (M 83/-8) 此の上に自分の肉體としての存在を築き上げ、此のまわりに人世の長さほどの長さのある心の糸をまきつける、それはやれることでもなし、又なすべき事でもない。

Granda parolisto, malgranda **faristo**. (P 511) 口先だけは偉大にして實行は偉小なる輩。

Faristo de pendigiloj. (H 145/2) 絞首臺製造人。

ĝ. **RE'FARI** 作りかへる、やりかへる。

h. **RE'FARIĜI**=esti refarata 作りかへられる。

Ĉu vi komencos simple **refaradi** kaj flikadi la karton de Eŭropo? (OV 354/19; ank. vd. OV 324/23) 諸君は單に歐洲地圖の作りかへや彌縫に着手せられんとして居るのであるか。

Ĉiu bagatelo, kiu ne estas konforma al nia gusto, pikas al ni la okulojn kaj vekas deziron de **refarado**. (OV 407/16) 吾人の嗜好に合はぬものはつまらぬ事でも悉く吾々の目ざわりとなり作りかへたい氣を起すものである。

Ĉio fariĝis el polvo kaj **refariĝos** polvo. (Pr 10/8) 一切は穢土より作られたるものにし

て再び穢土に還るもの也。

Vi scias ja: la leĝoj de l' naturo ne estas **refareblaj**! (H 12/19) 知つての通り自然の法則と云ふものはもどしのきかぬものぢや。

Farita ne **refariĝos**. (P 208) 爲てしまつた事はとりかへしはつかぬ (覆水盆に還らず Farita—elstrekita 『爲した事は既に抹消したこと』と同意の諺)。

h. **EL'FARI**=finfari 完成する、作りあげる; **SEN'FARA** 無爲の; k. c.

Sed mi scias, ke vi nenion plenumis, vi ne **elfaris** eĉ unu brikon. (FIII 152/-3) わかつてゐるともお前何一つしなかつたのだ、煉瓦一つ仕上げなかつた。

Fuŝisto estas tiu, kiu alkondukas sian verkon nur ĝis duono kaj poste foriras kaj **senfare** rigardas, kio plue fariĝos. (Rt 94/21) 自分の計畫(自作)を中途半端にしてすて去つてあとはそれからどうなるか袖手傍觀するやうな奴は大へまな奴。

Senfara plendo ne estas defendo. (P 117; ank. vd. P 122) 無爲の泣き事は防衛にはならぬ。

Memfarita homo. (FK 67/4) 自ら身を起した、修養した人。

En lingvo **artefarita** ĉio ŝajnas al ni kritikinda. (OV 407/14) 人造語に在るものは何でも文句をつけたく思はれるものである。

Kaj la imperiestro dolĉe endormiĝis; kvieta kaj **bonfara** (faranta bone) estis la dormo. (FII 31/23) 皇帝はぐつぐつと眠に入つたのであるが、その眠は安らかな、からだの藥になる眠であつた。

Post multa sidado la promenado estis vera **bonfaro** por li (FI 86/14) 長いこと坐つてゐたあとで散歩は彼にとつてほんとうによい保養(からだの藥)であつた。

Bonfarado (FK 77/-7) 慈善。

Bonfaraj vizitoj en malriĉaj dometoj. (BV 77/8) 貧困な家を慈善訪問。

Lasu, sinjoroj, ke mi ne mortu sen **pentofaro**. (Rz 56/-4) (これやたまらん)どうぞ私を懺悔もしないで(日本なら『遺言もする暇もなく』と云ふ所)死なさぬように頼みますよ。

Li **oferfaros** la kapron kiel pekoferon. (Lv. 16-9; ank. vd. Lv 16-24) 彼は山羊を贖罪の犠牲(にゑ)として供へた(屠つた)。

Se „ŝi“ volas, ĉu oni povas tiam ion **kontraŭfari**? (Rn 52/-2; 55/14; kc.) 何しろ山の神が是非とおつしやるのだから何とも手向ひは出来ぬぢやないか。

Vi ŝtelistoj, vi **brulfaristoj**! 此の盜賊め、この火つけ奴。

Kiu konstruas pli fortike, ol la masonisto, **ŝipofaristo** aŭ ĉarpentisto? (H 144/-6) 石工や、船匠や、大工よりもしつかり物を建て上げる者があるかい。

Bierfara kaldrono (FII 48/-4) ビール醸造釜。

Paperfarejo (FIII 7/22) 製紙場。

Vortfarado (FK 246/16) 造語(法)

Versfarado 作詩(法)

Falsofari skribon. (Rt 20/19) 偽筆する。

“Ekzercaro” 中の句讀點の用法

(Interpunkcio en “Ekzercaro”)

(Fino)

Joŝicugu OKAMOTO

(5) 分詞副詞を含んだ句を本文と區別するため兩者の間に(,)をおく。(次の例文中分詞副詞を斜體で示す)

... kaj alportis al la virino, *ĉiam subtenante* la kruĉon, por ke... (§ 15)

La filino iris, sed *ĉiam murmurante*. (§ 19)

... respondis al ŝi la malĝentilulino, *elĵetante* unu serpenton kaj unu ranon. (§ 21)

La filo de la reĝo, kiu revenis de ĉaso, *ŝin renkontis*; kaj, *vidante*, ke ŝi estas tiel bela, li demandis... (§ 21)

Promenante sur la strato, mi falis. (§ 22)

Trovinte pomon, mi ĝin manĝis. (§ 22)

... kaj la malfeliĉa knabino, multe *kurinte* kaj *trovinte* nenium, kiu volus ŝin akcepti, baldaŭ mortis en angulo de arbaro. (§ 23)

Aldonante la literon „ĉ“, ni ricevas vortojn komunajn: ĉia, ĉial... (§ 30)

Aldonante la prefikson „nen“, ni ricevas vortojn neajn: nenia, nenial... (§ 30)

Aldonante al la vortoj montraĵ la vorton „ĉi“, ni ricevas... (§ 30)

Aldonante al la vortoj demandaj la vorton „ajn“, ni ricevas... (§ 30)

Starante ekstere, li povis vidi nur la eksteran flankon de mia domo. (§ 31)

... unu tagon, *promenante* apud la reloj de fervojo, li falis sub la radojn... (§ 39)

... kaj ĝi, *flugante*, pendiĝis sur la branĉoj de la arbeto. (§ 39)

(6) 挿入句を明示するためうの前後に,をおく

Venu, *ni atedas vin*, Savonto de la mondo. (§ 22)

(7) 一般に前置詞をふくんだ語句は長くとも,を以て本文とは句切らぬが por + 不定法をふくんだ句は本文との間に,をおいてゐる。

... kiu prenis sur sin la formon de malriĉa vilaĝa virino, *por vidi*, kiel granda estos la ĝentileco de tiu ĉi juna knabino. (§ 15)

... tio ĉi estis tiu sama feino, kiu prenis sur sin la formon kaj la vestojn de princino, *por vidi*, kiel granda estos la malboneco de tiu ĉi knabino. (§ 19)

“Ĉu vi venis tien ĉi,” diris al ŝi la malĝentila kaj fiera knabino, “*por doni* al vi trinki?”

Certe, mi alportis argentan vazon speciale por tio, *por doni* trinki al tiu ĉi sinjorino. (§ 19) [注意: argentan は arĝentan の誤植]

Ekzemple: *por esprimi* direkton, ni oldonas al la vorto la finon „n“; sekve... (§ 28)

Ĉu vi havas korktirilon, *por malŝtopi* la botelon? (§ 34)

Unu fajrero estas sufiĉa, *por eksplodigi* pulvon. (§ 41)

Ni ĉiuj kunvenis, *por* priparoli tre gravan aferon; sed ni ne povis... (§ 42)

前置詞付の語句が, で本文と區切られてゐる例外的の例に次の如きがある。

Ekster tio el la diritaj vortoj ni povas ankoraŭ fari aliajn vortojn, per helpo de gramatikaj finiĝoj kaj aliaj vortoj;... (§ 30)

(8) 地の文と言葉の文との接ぎ目におく、但しその接ぎ目に ! や ? がある場合は不用である。これらは例外がないから一々例を上げない。

(9) 次の如く名詞の後にきた分詞形容詞をふくむ修飾語は, で區切られてゐる。

...ŝi vidis unu sinjorinon, tre riĉe vestitan, kiu eliris el la arbaro... (§ 19)

Al homo, pekinta senintence, Dio facile pardonas. (§ 22)

D. Punktokomo (;)

(1) 文法的には全く獨立した二文とみてもよいが意味の上で幾分の聯絡があるのでpunkto (.) できつては餘り強すぎるし komo (,) で切つては弱すぎる時に punktokomo (;) を用ひる。又 komo が連續的に澤山使用されてゐる様な場合 komo を用ひたのでは文の重要な區切りが不明瞭になるので komo よりも強く切りたい場所へ punktokomo (;) をおく。

La pli maljuna estis tiel simila al la patrino per sia karaktero kaj vizaĝo, ke ĉiu, kiu sin vidis, povis pensi, ke li vidas la patrinon; ili ambaŭ estis tiel malagrablaj kaj tiel fieraj, ke oni ne povis vivi kun ili. (§ 11)

Unue mi redonas al vi la monon, kiun vi pruntis al mi; due ni dankas vin por la prunto; trie mi petas vin ankaŭ poste prunti al mi, kiam mi bezonos monon. (§ 14)

Kvar metroj da tiu ĉi ŝtofo kostas naŭ frankojn; tial du metroj kostas kvar kaj duonon frankojn (aŭ da frankoj). (§ 14)

Tiu ĉi libro havas sesdek paĝojn; tial, se mi legos en ĉiu tago po dek kvin paĝoj, mi finos la tutan libron en kvar tagoj. (§ 14)

Marinjo, rigardu, kio eliras el la buŝo de via fratino, kiam ŝi parolas; ĉu ne estus al vi agrable havi tian saman kapablon? Vi devas nur iri al la fonto ĉerpi akvon; kaj kiam malriĉa virino petos de vi trinki, vi donos ĝin al ŝi ĝentile. (§ 17)

Sinjoro Petro kaj lia edzino tre amas miajn infanojn; mi ankaŭ tre amas iliajn (infanojn). (§ 18)

Mi zorgas pri ŝi tiel, kiel mi zorgas pri mi mem; sed ŝi mem tute ne zorgas pri si... (§ 18)

Miaj fratoj havis hodiaŭ gastojn; post la vespermanĝo niaj fratoj eliris kun la gastoj el sia domo kaj akompanis ilin ĝis ilia domo. (§ 18)

Mi jam havas mian ĉapelon; nun serĉu vi vian. (§ 18)

La infano serĉis sian pupon; mi montris al la infano, kie kuŝas ĝia pupo. (§ 18)

Nun mi legas, vi legas kaj li legas; ni ĉiuj legas. (§ 20)

Vi skribas, kaj la infanoj skribas; ili ĉiuj sidas silente kaj skribas. (§ 20)

Mi ĝin ankoraŭ ne serĉis kiam mi finos mian laboron, mi serĉos mian horloĝon, ... (§ 20)

Kiam mi venis al li, li dormis; sed mi lin vekis.

Ŝia fratino en ĉio estas kulpa; mi pagos al ŝi por tio ĉi! (§ 21)

La filo de la reĝo, kiu revenis de ĉaso, ŝin renkontis; kaj, vidante, ke ŝi estas tiel bela, li demandis ŝin, kion... (§ 21)

Ne riproĉu vian amikon, ĉar vi mem plimulte meritas riproĉon; li estas nur unufoja mensoginto dum vi estas... (§ 22)

La tempo pasinta jam neniam revenos; la tempon venontan neniu ankoraŭ konas. (§ 22)

...ke ŝia propra patrino ŝin forpelis de si; kaj la malfeliĉa... (§ 23)

...(aŭ li estos dirinta al mi la veron; aŭ, antaŭ ol vi venos al mi, li diros al mi la veron).

Laŭ la projekto de la inĝenieroj tiu ĉi fervojo estas konstruota en la daŭro de du jaroj; sed mi pensas, ke ĝi estos konstruata pli ol tri jarojn. (§ 25)

Sur la kameno inter du potoj staras fera kaldrono; el la kaldrono, en kiu sin trovas bolanta akvo, eliras vaporo; tra la fenestro, kiu sin trovas apud la pordo, la vaporo iras sur la korton. (§ 25)

Vortoj kunmetitaj estas kreataj per simpla kunligado de vortoj; oni prenas ordinare la purajn radikojn, sed, se la bonsoneco aŭ la klareco postulas... (§ 27)

Ekzemploj: skribtablo aŭ skribotablo (=tablo, sur kiu oni skribas); internacia (=kiu...); tutmonda (=de la tuta mondo); unutaga (=...); unuataga (=...); vaporŝipo (=ŝipo...); matenmanĝi, tagmanĝi, vespermanĝi; abonpago (=pago por la abono). (§ 27)

Ekzemple: por esprimi direkton, ni aldonas al la vorto la finon „n“; sekve: tie (=en tiu loko), tien (=al tiu loko); tiel same ni... (§ 28)

...sed ke ĝi de alia loko flugis al la ĝardeno, al la tablo (ni volas montri, ke la ĝardeno kaj tablo ne estis la loko de la flugado, sed nur la celo de la flugado); en tiaj okazoj ni uzas la finiĝon „n“ tute egale ĉu ia prepozicio starus aŭ ne. (§ 28)

Sed ni ne uzas la akuzativon tiam, kiam la klareco de la senco tion ĉi malpermesas; ekzemple: ni povas diri „pardonu al la malamiko“ kaj... (§ 29)

Glaso de vino estas glaso, en kiu antaŭe sin trovis vino, aŭ kiun oni uzas por vino; glaso da vino estas glaso plena je vino. (§ 32)

La fenestro longe estis nefermita; mi ĝin fermis, sed mia frato tuj ĝin denove malfermis. (§ 33)

Ĉiuj parencoj de mia edzino estas miaj boparencoj, sekve ŝia frato estas mia bofrato, ŝia fratino estas mia bofratino; miaj frato kaj fratino (gefratoj) estas la gefratoj de mia edzino. (§ 36)

Virino, kiu kuracas, estas kuracistino; edzino de kuracisto estas kuracistedzino. (§ 36)

En la kota vetero mia vesto forte malpurigis; tial mi prenis broson kaj purigis la veston. (§ 39)

Li fianciĝis kun fraŭlino Berto; post tri monatoj estos la edziĝo: la edziĝa soleno estos en la nova preĝejo, kaj la edziĝa festo estos en la domo de liaj estontaj bogepatroj. (§ 39)

Mia onklo ne mortis per natura morto, sed li tamen ne mortigis sin mem kaj ankaŭ estis mortigita de neniŭ; unu tagon, promenante apud la reloj de fervojo, li falis sub la radojn de veturanta vagonaro kaj mortigis. (§ 39)

Mi ne pendigis mian ĉapon sur tiu ĉi arbeto; sed la vento forblovis de mia kapo la ĉapon, kaj... (§ 39)

Magazeno, en kiu oni vendas cigarojn, aŭ ĉambro, en kiu oni tenas cigarojn, estas estas cigarejo; skatolo aŭ alia objekto, en kiu oni tenas cigarojn, estas cigarujo; tubeto, en kiu... (§ 40)

En la poŝo de mia pantalono mi portas monujon, kaj en la poŝo de mia surtuto mi portas paperujon; pli grandan paperujon mi portas sub la brako. (§ 40)

Li estas tre ekkolerema kaj ekscitiĝas ofte ĉe la plej malgranda bagatelo; tamen li estas tre pardonema, li ne portas longe la koleron kaj li tute ne estas venĝema. (§ 41)

Ni ĉiuj kunvenis, por preparoli tre gravan aferon; sed ni ne povis atingi ian rezultaton, kaj ni disiris. (§ 42)

El la tri leteroj unu estis adresita: al Lia Episkopa Moŝto, Sinjoro N.; la dua: al Lia Grafa Moŝto, Sinjoro P.; la tria: al Lia Moŝto, Sinjoro D. (§ 42)

E. Dupunkto (:)

(1) 引用文の前に : をおく

Kiam la bona virino trankviligis sian soifon, ŝi diris al la knabino: “Vi estas tiel bela, tiel bona... donacon” (ĉar...). (§ 15)

Apenaŭ ŝia patrino ŝin rimarkis, ŝi kriis al ŝi: «Nu, mia filino?» (§ 21)

... tiel same ni ankaŭ diras: „la birdo flugis en la ĝardenon, sur la tablon,” kaj... (§ 28)

Mi diris al la reĝo: via reĝa moŝto, pardonu min! (§ 42)

(2) 文中の語句又は前文の内容を説明する場合に : をおく故に又 Ekzemploj, Ekzemple 等の語の次へおかれることが多い。(1) はこの場合の特例と考へることもできる。

Nomoj de la literoj: a, bo, co, ĉo, do, e, fo, go, ĝo, ho, ĥo, i, ... (§ 1)

Ne, vi eraras, sinjoro: via pano estas malpli freŝa, ol mia. (§ 10)

Mia opinio estas: prenu mem akvon, se vi volas trinki. (§ 19)

Ekzemploj: skribtablo aŭ skribotablo... (§ 27)

Ekzemple: por esprimi direkton, ni aldonas al la vorto la finon „n”; sekve: tie (=en tiu loko), tien (=al tiu loko); tiel same... (§ 28)

Ni disiĝis kaj iris en diversajn flankojn: mi iris dekstren, kaj li iris maldekstren. (§ 28)

Mi ridas je lia naiveco (aŭ mi ridas pro lia naiveco, aŭ: mi ridas lian naivecon). (§ 29)

Je la lasta fojo mi vidas lin ĉe vi (aŭ: la lastan fojon). (§ 29)

Mi sopiras je mia perdita feliĉo (aŭ: mian perditan feliĉon).

... ekzemple: ni povas diri... (§ 29)

Se... ni ricevas vortojn demandajn aŭ rilatajn: kia, kial, kiam... (§ 30)

... ni ricevas vortojn montraĵajn: tia, tial, tiam... (§ 30)

Aldonante... ni ricevas vortojn komunajn: ĉia, ĉial, ĉian, ... (§ 30)

Aldonante... ni ricevas vortojn neajn: nenia, nenial, neniam... (§ 30)

Aldonante... ni ricevas montron pli proksiman; ekzemple: tiu (pli malproksima), tiu ĉi (aŭ ĉi tiu) (pli proksima), tiu ĉi (aŭ ĉi tiu) (pli proksima);... (§ 30)

Aldonante... ni ricevas vortojn senindiferentajn: kia ajn, kial ajn, ... (§ 30)

Ekster tio... ekzemple: tiama, ĉiama, ... (§ 30)

La birdo ne forflugis: ĝi nur deflugis de la arbo, ... (§ 31)

Mia frato ne estas granda, sed li ne estas ankaŭ malgranda: li estas de meza kresko. (§ 33)

En tiuj ĉi boteletoj sin trovas diversaj acidoj: vinagro, sulfuracido, azotacido kaj aliaj. (§ 35)

Ni havas diversajn servantojn: kuiriston, ĉambristinon, infanistinon kaj veturigiston. (§ 37)

Li estas tre kredema: eĉ la plej nekredoblajn aferojn, kiujn rakontas al li la plej nekredindaj homoj, li tuj kredas. (§ 41)

El la tri leteroj unu estis adresita: al Lia Episkopa Moŝto, Sinjoro N.; la dua: al Lia Grafa Moŝto, Sinjoro P.; la tria: al Lia Moŝto, Sinjoro D. (§ 42)

Ekzemple: plenumi, kolumo, manumo. (§ 42)

F. Streketo (-)

- (1) 一つの単語を途中できつて次の行へうつす時のしるしとして用ふ。

この例は Ekzercaro 中に無数にある。一々ここにあげぬ。

- (2) 未だ一般に使はれてをらぬ結合や特殊の結合になる合成語に於てその接ぎ目におく。

dek-unua (§ 12)

dek-dua (§ 12) [注意: これは dek- で行が變つてゐるので不明であるが F. Krestomatio には dek-dua となつてゐる。]

[kvindek-unua (§ 12) [同上]。[注意: § 12 には上の如き例もあるが dudek sepa (tago) とか dudek duan とか mil sepcent tridek dua の如き例もある。]

Mi aĉetis dekduon (aŭ dek-duon) da kuleroj... (§ 14)

Unu tago estas tricent-sesdek-kvinono aŭ tricent-sesdek-sesono de jaro. (§ 14)

Ĉi-tiea. (§ 30)

Mi ne scias la lingvon hispanan, sed per helpo de vortaro hispana-germana mi tamen komprenis iom vian leteron. (§ 34)

Ekzercaro の本文ではないが § 37 の註の所の an の項に

Nov-Jorko.

Nov-Jorkano

がある。

(3) 音節の切目を示すために用ふ。

これは Ekzercaro 中 § 2 と § 3 の Ekzerco de legado に於て用ひられてゐる。一々例をあげる必要をみとめない。

G. Streko (—)

(1) 文の中の述語動詞が省略された時述語動詞の場所へおく。この用法は普通に餘り用ひられてゐない。

Ĉevalido estas nematura ĉevalo, kokido—nematura koko, bovido—nematura bovo, birdido—nematura birdo. (§ 36)

(2) 何等關係のない文をいくつも一つづきに書きしるす場合に用ひる。

Patro—kaj frato.—Leono estas besto.—Rozo estas floro...

と § 5 から § 42 までこの用例は無数にある。

§ 22 の La falinta homo ne povis sin levi. の次に — が脱落してゐる。(F. K. には — が如へられてゐる。)

Ĝ. Apostrofo (')

(1) 冠詞の a を省略した場合

Anstataŭ „la“ oni povas ankaŭ diri „l'“ (sed nur post prepozicio, kiu finiĝas per vokalo). (§ 27)

名詞語尾の省略による (') は Ekzercaro には出てこない。

H. Citsignoj (“ ”)

Ekzercaro 中には様々の citsignoj が用ひられてゐる。

§§ 15, 16, 17, 19 等では英語式の (“ ”) を用ひてゐる。

例へば “Tre volonte, mia bona,” diris la bela knabino. (§ 15)

§§ 21, 22, 42 等ではフランス語式の (« ») を用ひてゐる。

例へば Apenaŭ ŝia patrino ŝin rimarkis, ŝi kriis al ŝi: «Nu, mia filino?» (§ 21)

§§ 27, 28, 29, 30, 32 等ではドイツ語式の („ “) を用ひてゐる。

例へば La artikolo „la“ estas uzata tiam, kiam ni parolas pri personoj aŭ objektoj konataj. (§ 27)

これはどの式の citsignoj を用ひてもよいといふことを示すためにわざとかくしたものと思ふ。(この論文では印刷の煩はしさからこの區別を嚴密にしてゐないことをおことわりしておく)。

(1) 地の文と詞の文を區別するため詞の文の兩端におく。

この例は Ekzercaro 中澤山あるから一々こゝにあげない。

§ 17 の “Se estas tiel,” diris la patrino, mi devas tien sendi mian filinon. に於て mi の前と filinon. の次に citsignoj がある筈のが脱落してゐる。又詞の文に citsignoj を用ひない例もある。例へば

Mi diris al la reĝo: via reĝa moŝto, pardonu min! (§ 42)

(2) 特にある語句をとりたてゝ示す場合に citsignoj を用ひる。

EKZERCARO de la lingvo internacia «Esperanto» (表題)

Ci skribas (anstataŭ “ci” oni uzas ordinare “vi”). (§ 16)

En la lingvo «Esperanto» ni vidas la estontan lingvon de la tuta mondo. (§ 22)

La artikolo „la“ estas uzata tiam, kiam ni parolas... (§ 27)

Anstataŭ „la“ oni povas ankaŭ diri „l“ (...) (§ 27)

...ni aldonas al la vorto la finon „n“... (§ 28)

...kaj la vortoj „ĝardenon“, „tablon“ staras tie ĉi en akuzativo ne ĉar la prepozicioj „en“ kaj „sur“ tion ĉi postulas, sed nur ĉar ni... la finiĝon „n“ tute egale ĉu ia prepozicio starus aŭ ne. (§ 28)

...ni povas uzi la komunan prepozicion „je“. Sed estas bone uzadi la vorton „je“ kiel eble pli malofte. Anstataŭ la vorto „je“ ni povas ankaŭ uzi akuzativon sen prepozicio. (§ 29)

Ekzemple, ni povas diri „obei al la patro“ kaj „obei la patron“ (anstataŭ „obei je la patro“). (§ 29)

...ekzemple: ni povas diri „pardonu al la malamiko“ kaj „pardonu la malamikon“, sed ni devas diri ĉiam „pardonu al la malamiko lian kulpon“. (§ 29)

Se ni aldonas al ili la literon „k“... (§ 30)

Se ni aldonas la literon „t“... (§ 30)

Aldonante la literon „ĉ“... (§ 30)

Aldonante la prefikson „nen“... (§ 30)

Aldonante...la vorton „ĉi“... (§ 30)

Aldonante...la vorton „ajn“... (§ 30)

„Da“ post ia vorto montras, ke tiu ĉi vorto havas signifon de mezuro. (§ 32)

Ĥ. Parentezo (())

(1) 文全體又は文中の語句について補足的説明をなす時 () を用ひる。

Mi aĉetis dekduon (aŭ dek-duon) da kuleroj... (§ 14)

Mil jaroj (aŭ milo da jaroj) faras jarmilon. (§ 14)

..., t. e. (=tio estas) dek frankojn. (§ 14)

...du metroj kostas kvar kaj duonon frankojn (aŭ da frankoj). (§ 14)

Ci skribas (anstataŭ “ci” oni uzas ordinare “vi”). (§ 16)

Kiam oni estas riĉa (aŭ riĉaj), oni havas multajn amikojn.

...petis de ŝi trinki (tio ĉi estis tiu sama feino, kiu prenis sur sin la formon kaj la vestojn...). (§ 19)

... (aŭ li estis dirinta al mi la veron). (§ 24)

... (aŭ li estos dirinta al mi la veron; aŭ antaŭ ol...). (§ 24)

... (aŭ se li estus dirinta al mi la veron). (§ 24)

... (aŭ estu dirinta al mi la veron). (§ 24)

... (aŭ mi volas esti dirinta la veron). (§ 24)

... antaŭ nelonge (aŭ antaŭ nelonga tempo)... (§ 25)

La birdo flugas en la ĉambro (=ĝi estas en la ĉambro kaj flugas en ĝi). (§ 26)

La birdo flugas en la ĉambron (=ĝi estas ekster la ĉambro kaj flugas nun en ĝin). (§ 26)

... (ekzemple rusoj aŭ poloj...). (§ 27)

Anstataŭ „la“ oni povas ankaŭ diri „l“ (sed nur post prepozicio, kiu finiĝas per vokalo). (§ 27)

Ekzemploj: skribtablo aŭ skribotablo (=tablo, sur kiu oni skribas); internacia (= kiu estas inter diversaj nacioj); tutmonda (=de la tuta mondo); unutaga (=kiu daŭras unu tagon); unuataga (=kiu estas en la unua tago); vaporŝipo (=ŝipo, kiu sin movas per vaporo); ... abonpago (=pago por la abono). (§ 27)

Ekzemple: ... tie (=en tiu loko), tien (=al tiu loko); ... (§ 28)

... al la tablo (ni volas montri, ke...) (§ 28)

Morgaŭ mi veturos Parizon (aŭ en Parizon). (§ 28)

Mi renkontis nek lin, nek lian fraton (aŭ mi ne renkontis lin, nek lian fraton). (§ 28)

Mi ridas je lia naiveco (aŭ mi ridas pro lia naiveco, aŭ:...) (§ 29)

Je la lasta fojo mi vidas lin ĉe vi (aŭ: la lastan fojon). (§ 29)

Mi sopiras je mia perdita feliĉo (aŭ: mian perditan feliĉon). (§ 29)

... ĉu ĝi postulas post si la akuzativon (t. e. ĉu ĝi estas aktiva) aŭ ne, ... (§ 29)

... obei la patron“ (anstataŭ „obei je la patro“). (§ 29)

ekzemple tiu (pli malproksima, tiu ĉi (aŭ ĉi tiu) (pli proksima); tie (malproksime), tie ĉi aŭ ĉi tie (proksime). (§ 30)

... kaj aliaj vortoj (sufiksoj); ekzemple: tiama, ĉiama... tiamulo k. t. p. (=kaj tiel plu). (§ 30)

Alportu al mi metron da nigra drapo (Metro de drapo signifas metron, kiu kuŝis sur drapo, aŭ...). (§ 32)

Sur la arbo sin trovas multe (aŭ multo) da birdoj. (§ 32)

... miaj frato kaj fratino (gefratoj) estas la bogefratoj de mia edzino. (§ 36)

... nomas Johanĉjo (aŭ Joĉjo), Nikolĉjo (aŭ Nikoĉjo aŭ Nikĉjo aŭ Niĉjo), Erneĉjo (aŭ Erĉjo), Vilhelĉjo (aŭ Vilheĉjo aŭ Vilĉjo aŭ Viĉjo), Manjo (aŭ Marinjo), Klanjo kaj Sonjo (aŭ Sofinjo). (§ 38)

Sidigu vin (aŭ sidiĝu), sinjoro! (§ 39)

La sufikso «um» ne havas difinitan signifon, kaj tial la (tre malmultajn) vortojn kun «um» oni devas lerni, kiel simplajn vortojn. (§ 42)

(2) 省略し得る語句を示すため括弧でかこむ。

Ĝojan feston! (mi deziras al vi). (§ 10)

Kia ĝoja festo! (estas hodiaŭ). (§ 10)

La dudeka (tago) de Februaro estas... (§ 12)

Hodiaŭ estas la dudek sepa (tago) de Marto (§ 12)

Sinjoro Petro kaj lia edzino tre amas miajn infanojn; mi ankaŭ tre amas iliajn (infanojn). (§ 18)

—[完]—

PLIMULTE PRI ESPERANTAJ ETIMOLOGIOJ

HUDITA-Syuzo

Lastjare mi skribis pri kelke da esperantaj etimologioj. Mi daŭrigas pri plimultaj radikoj, kiuj mi pensas estas interesaj al niaj legantoj.

ĉiz-i Laŭ la vortaro de Kabe, estas »fari ornamaĵojn, figurojn sur metaloj per instrumento kun mallarĝa akra rando.« Franca *ciseau* estas instrumento per kiu oni skruptas figurojn sur malmolaj materiojn, t. e. ĉizito. Tiu ĉi vorto estas esperantigita kiel *ĉizo*, kaj ĝia verbo estas *ĉizi*. Por la instrumento, *ĉizilo* estas uzata, ĉar lavorto *ĉizo* devas signifi agon de skrupto.

devalut-o Itala *valuta* estas la etimologio de esperanta *valuto*. Esperanta prefikso *de-*, kiu havas signifon de »igi fore«, kaj *valuto* faras novan vorton *devaluto*.

Rim. Ne estas naciivorto por *devaluto*. *Devalvacio*, kiu havas saman signifon kun *devaluto*, estas derivita de angla *devaluation*.

Plusvaluto estas kunmetita vorto de *plus* kaj *valuto*, kaj franca *plus-value* respondas al ĝi.

dog-o Dogo estas speco de granda forta hundo, kiu havas fortikajn, makzelojn, pendantajn lipojn, malgrandajn orelojn kaj starantan voston. Por ĉi tiu senco franca vorto *dogue* aŭ germana *Dogge* taŭgas kiel etimologio, kaj ne angla *dog*, kiu esprimas ĉiujn specojn de hundo.

Pri la etimologio de -ec-.

Pri ĉi tiu sufikso mi supozis ke ĝi devenas de itala *-ezza* aŭ portugala *-eza*, kiuj havas saman signifon kiel esperanta. Sed fonetike alia klarigo estas farebla. En kelkaj lingvoj *t* ofte fariĝas *c*, kaj en Esperanto. Ekzemple

-tio (L), -tion (A, F, G) fariĝas -cion (I) aŭ -cio (E):

tiel,

pi-ec-o venas de *piéié* (F), *piety* (A), *pieta* (I), *pietas* (L).

vari-ec-o venas de *variété* (F), *variety* (A), *varietas* (L).

ĉast-ec-o venas de *chasteté* (F), *chastity* (A), *castitas* (L).

Ĉi tiuj -été, -ety, -eta, aŭ -etas fariĝas -ec-o ŝanĝante *t* al *c*, kaj tenante finaĵon *o* de Esperanto. Kompreneble -été (F), -eta (I), -ety (A), -eza (Pg), -ezza (I) havas saman devenon, t. e. de -etas (L).

Pri la etimologio de -ej-.

Ĉiuj germanaj vortoj montrataj sur la ĉi-suba tabelo havas -ei kiel siaj sufiksoj. Kaj iliaj sencoj signifas lokon kie oni faras la agon montratan per ĉiuj radikoj. Tiu sufikso -ei estas esperantigita kiel -ej-, kiu havigis specialan sencon. Germana -ei havas sencon kiu montras abstraktan sencon korespondantan al angla -ry aŭ latina -rium.

Türkei kiu estas germana nomo de *Turkujo* similas al angla *Turkej*. Iliaj sufiksoj -ei kaj -ey estas de sama etimologio.

TABELO

Germana		Germana	
Abt	abato	Abtei	abatejo
Bäcker	panisto	Bäckerei	panejo
Bad	bano	Baderei	banejo
Berber		Berberei	Berberujo
Brenner		Brennerei	distilejo
Giesser	fandisto	Giesserei	fandejo
Faktor	faktoro	Faktorei	faktorio
Fischer	fiŝkaptisto	Fischerei	fiŝkaptejo
Gerber	tanisto	Gerberei	ledtanejo
Glaser	vitrofaristo	Glaserei	vitrofarejo
Jäger	ĉasisto	Jägerei	ĉasejo
Konditor	kukisto	Konditorei	konditorio
Melker	melkisto	Melkerei	melkejo
Schäfer	ŝafpastisto	Schäferei	ŝafpastejo
Schinder	senfeligisto	Schinderei	senfeligejo
		Schweizerei	laktejo
Setzer	presisto	Setzerei	kompostejo
siedeln	koloni	Siedelei	kolonio

Stute	ĉevalino	Stuterei	ĉevalbredejo
Tischler	lignisto	Tischlerei	lignaĵejo
Türk	Turko	Türkei	Turkujo
Walker		Walkerei	blankigejo
Wäscher	lavisto	Wäscherei	lavejo
Weber	teksisto	Weberei	teksejo
Wüste		Wüstenei	dezerto

fen-i Ĉi tiu vorto signifas » sekigi herbon «, aŭ » fari fojnon «. La vorto venis de franca *fonil*, kiu signifas » fojnejon «. Franca *fenil* transliteriĝas kiel *fenilo*, kaj forigante *-il-* oni faras *fen-i*.

Rim. *Feno*, kiu signifas sudan varman venton, estas de alia etimologio, t. e. germana *Foehn*.

Esperanta *fenilo* signifas ĥemian kombinaĵon *phenyl*.

fitoterapi-o estas kuracado per kreskaĵoj; *fito* estas derivata de naci-lingva prefikso *pnito-* (A. F. G.), aŭ *φντ* (Gk) kiu signifas kreskaĵon, kiam *terapio* estas de *therapie* (F, G), *therapy* (A) kiu signifas kuracadon. Sed mi ne povis trovi tial vortojn kiel *phytotherapie* aŭ *phytotherapy* en naci-lingvaj vortaroj.

insoliĝ-o estas kunmetita vorto de *insol-i*, kies etimologio estas latina verbo *insolare*, kaj esperanta sufikso *-iĝ-*.

kosmoĥemi-o estas kunmetita vorto de *cosmo* (A, F) aŭ *Kosmo* (G) kaj *ĥemio* estas de *Chemie* (G). Tamen mi ne povis trovi kia ajn vorto kiel *Kosmochemie* aŭ *cosmochimie* en nacilingvaj vortaroj.

larĝ-a Tiuj kiuj scias anglan lingvon pensus ke *larĝa* venis de angla *large*. Sed la senco kiun esperanta *larĝa* havas malsimilas de tiu de angla, kaj plivole similas al tiu de franca *large*.

minusvalut-o ankaŭ estas kunmetita vorto de *minus* kaj *valuto*, kaj signifas malmultigon de valuto.

mung-i estas ago purigi nazon. Por la vorto mi povis trovi italan vorton *mungere*, kiu signifas agon de » elpremi « aŭ » melki «. Ĉar purigi nazon oni elpremas sian nazmukon, la vorto estas uzata.

-nj- estas sufikso por derivi virinajn karesajn nomojn, estas de rusa sufikso *-nya* (-НЯ) etimologio de la radiko, ekz.—*Manjo* estas ruse *Maniya*.

pranz-i = intermanĝeti; por la vorto itala *pranzare* kiu signifas manĝi, devas esti ĝia etimologio.

protokanajl-o Kunmetita vorto de *proto-* kaj *kanajlo*. *Proto* estas *proto*

de nacilingvo kaj *kanajlo* estas de franca *canaille*. Mi ne scias tia vorto kiel *protocanaille* en franca lingvo.

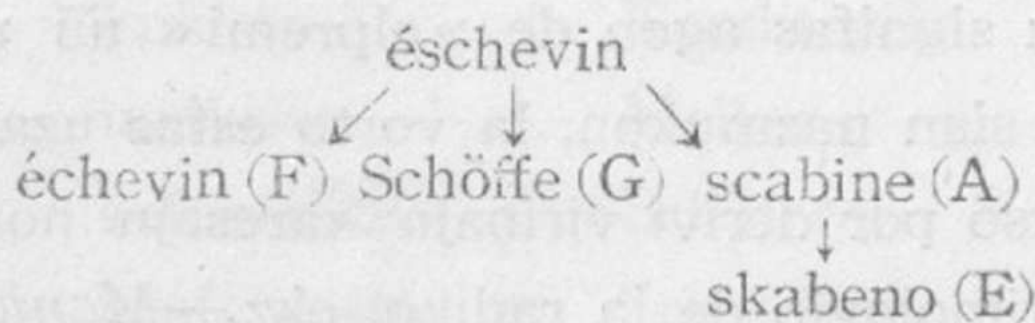
ralik-o ŝnuro stebita al velrando, por kiu itala *ralinghe* estas proksima vorto.

servut-o Ne estas nacilingvo kiu korespondas al esp-ta *servuto*. La samsignifaj vortoj estas *servitude* (A, F), *servitudo* (L), *servitude* (I), kiuj havas du signifojn: unu estas »duonskraveca stato de kamparano« aŭ »laboro kiun kamparano ŝuldas senpage al la mastrosinjoro aŭ al la ŝtato«, kiam la dua estas »rajto laŭ kiu oni uzas teron, kiu apartenas al alia homo«. Por unua senco esperanta *servitudo* estas farita. Por dua oni fortenas silabo *-it-*, kaj novforma vorto *servuto* estas farita, distingi la unu el la alia.

sikomor-o Por la vorto Nova Vortaro Esperanto-Japana metis difinon de speco de acero (*acer*). Sed en rusa vortaro *sikomor* estas speco de figo, kiu apartenas al morusacoj. Franca *sycamore* estas speco de acero. Angla *sycamore* havas du signifojn: unu estas speco de figo (*figus sycemorus*), kaj alia estas arbo simila al platano (*Acer pseudoplatanas*).

Rim. Plena Vortaro de SAT difinas »G. de morusacoj, arbo, kies ligno estas neputriĝema (*sycomora*)«, kiam la sama libro donas por *acero* difinon de »arbo parenc je platano kaj sikomoro (*acer*)«. Se sikomoro estas parenca arbo de acero, ĝi ne devas esti genro de morusacoj. La Vortaro enhavas memkontraŭecon.

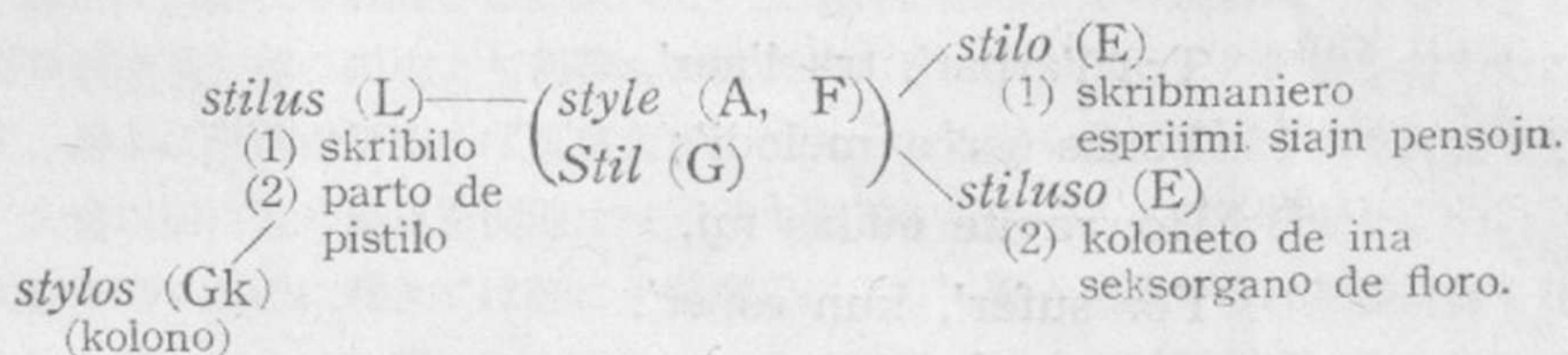
skaben-o Nova Vortaro de s-ro Okamoto difinas ĉi tiun vorton kiel ĵura alsidanto. Sed la Vortaro de SAT difinas kiel »alta urbestrara funkciulo en kelkaj landoj«, kaj ambaŭ estas taŭgaj. En franca vortaro oni eltrovos vorton *échevin* aŭ *éschevin*, kiu signifas en Francujo kaj Belgujo oficiston, kiu havas funkcion de urbestraro kiel *alderman* en anglaj urboj. *échevin* fariĝis *éschevin* litero *é* ellasita kaj *e* kaj *v* respektive ŝanĝitaj al *a* kaj *b*, tiel angla vorto *scabine* fariĝis. De tiu ĉi vorto esperanta radiko *skabeno* devenis. Germana *Schöffe* kiu signifas ĵuran alsidanton, estas de sama etimologio kun *échevin* aŭ *éschevin*.



stilus-o Originala vorto estas latina *stylus* aŭ pliĵuste *stilus*, kiu estas skribilo uzita de antikvaj romanoj. De tiu ĉi vorto deriviĝis angla kaj franca *style* kaj germana *Stil*, kiuj havas signifojn de 1. maniero de skribo esprimi

siajn pensojn; kaj 2. parto de la pistilo; kaj aliaj. Por unua signifo tiu ĉi vorto estas esperantigita kiel *stilo* kaj por dua signifo oni tenas formon de *stiluso*.

Rim. Latina *stilus* estas konfuzita kun greka *στυλος* (*stylos*), kiu estas kolono kaj de kiu devenis la signifo de »parto de pistilo«, kaj angla, franca aŭ germana vorto havas ambaŭ signifojn.



Pri la etimologio de Esperanta sufikso -uj-

Pri la etimologio de sufikso -uj- mi povis eltrovi ĝin en nenia nacilingvo. Sed estas certe ke nia Majstro e'pensis ĝin el iu rezonebla bazo. Tial mi serĉadis tion en kelkaj naciaj landnomoj en Eŭropo, kaj mi renkontis francan landnomon de *Tchécoslovaquie*. Kompreneble tiu ĉi nomo devas esti esperantigita kiel *Ĉekoslovakujo*, t. e. franca -*quie* al esperanta -*kujo*.

Bedaŭrinde tiu ĉi regno organiziĝis post la morto de Majstro. Tial estas evidente ke -uj- ne estas farita el tiu landnomo. Finfine mi kontraŭis la francan *Turquie*. Prave tiu nomo devas transliteriĝi al Esperanta kiel *Turkujo*, kiam popolo regnanta sur tiu lando estas *Turc*, *Turque* (F), *Turk* (A), *Türke* (G) aŭ *Turko*.

Turquie — *Turc* = -*uie*

Turkujo — *Turko* = -*uj*

Tiel oni vidas ke -*ujo* venis de -*uie* de *Turquie*.

(Aŭg. 22. 1937)

Mi petas gesamideanojn kritiki miajn klarigojn, kaj se ili havas materi alojn, kiuj pravas aŭ nepravas mian supozon, bonvolu sciigi ilin al mi.

Bela, Bona, Uzo, Muzo!

實業分科會を祝して漫歌一篇

伊井迂老人作

Tra l'arbar', tra l'aer',
 Venas sorĉa melodi';
 Ho, ravite aŭdas mi,
 For sufer', kun esper',
 Ĝis la lim' de l' horizont'
 Ŝvebas dolĉa lirsonor',
 Jen, diina mirlabor',
 Ja, de Muzo sur la mont'.

Ĉe la valo simpla homo
 Laboradas kun persist'.
 Diligenta li plugist',
 Uzo estas lia nomo.

Nun en paca gaja sento
 Kantas li tra freŝa vento:—
 „Pli ol ian kanton verki,
 Devas ni ja kampon sterki!“

Mi la mondon faros bela!
 Diris la diino Muzo,
 Per la dolĉa kant' ĉiela.
 Mi la vivon faros bona!
 Diris simpla homo Uzo,
 En plugado unutona
 Ili faras homojn riĉaj,
 Ili faras nin feliĉaj!
 Hura, bela, bona!
 Vivu, Uzo, Muzo!

(1937. 9. 13. I.U.)

大會規約神戸案に關する私見

(札幌) Haruo Aizawa

神戸エスペラント協會の同志諸兄姉の數年に亘る大會規約に關する研究、試案起草等の熱心なる努力に對し余は深甚の敬意を表す。

同協會は既に札幌大會以前にその規約案、規約案の説明並に趣意書を發表され、又本年七月號 R.O. 誌上に公開狀を發表さる。余はこの公開狀を讀みてその反響の大なるべきを思ひ必ずや起草委員或は其の他の同志より何等かの批判等あるべきを信じその發表を待ちたるも未だ之を聞かず、思ふに委員會側にては東京大會に於てその原案を提出審議すべく計畫せしなるべしと信じ、大會以前に余の愚見を開陳すべく敢て駄文を發表するの意を決せり。

本來大會規約の問題に就きては既に先輩諸氏によりて屢々論議せられ且委員會も組織されあり余輩の如き顔を出すべき幕にあらざるも、余は該案に關する疑點を述べ余の誤解せる點あらば同志諸兄姉の懇切なる指導を乞はんとするのみ。

同會の發表せる原案、原案説明、趣意書並に公開狀に依れば同會は大會の三大根本原則として重點を次の事項に置かれたり、曰く

- A. 大會は日本内エスペランティストの總意を顯現する唯一の機關なり
- B. 大會は日本全エスペランティストの年一回の大祝祭なり
- C. 大會は日本全エスペラント運動の最高の合議機關なり

何人もこのイデオロギーに對しては異議を有せざるべく又エスペランティストたるものは必ず賛意を表すべきなり。次に該原案中の所謂劃期的飛躍的因子なるものは次の如くなるべし。

- 一、大會協議會の議決權は前寄附金五口以上を寄附したる會より派遣せられたる有議決權代表のみ之を有する事
- 二、代表機關を設置する事
- 三、前寄附金を大會開催の一年以上前に募集する事

以上の各項は謂ふが如く全く劃期的のものなるべく新奇を好む新人諸君には大いに歡迎されんも之に就ては今一段の研究を要するに非ずやとの懸念なきにしも非ず。今聊か余の理解し難き點を述べん。

議決權所有者を五口(一口一圓)以上の寄附をなしたる會の代表にのみ與へ全出席者に之を與へざるは如何。議決權代表を特に設くる必要ありや。大會を以て全エスペランティストの總意を顯現せしむる唯一の機關、運動の最高合議機關たらしめんとする根本的イデオロギーに相反せざるや。

大會出席者の全部が必ず何れかの會に屬するとは斷定し難し。又會に屬するも前寄附なさざる會あらばその會の代表に議決權なく、會に屬せざる同志が議決權を得んと欲せば如何になすべきや、一人には五口以上の前寄附をなすべきや、又は全く個人には議決權は與へられざるや、斯の如きは神戸エス會の提唱せるイデオロギーに反せざるや。

神戸エス會の規約案の説明を見るに十五條十六條に對しては次の如し、

「多數の會員を擁し會名を掲げ乍ら、僅々五口の前寄附金を提供しない様な會を誠意あるとは認め難いと思ひます。五口に一票といふ説もありますが、多少如何かと思はれる點もあるから敬遠して置きました。勿論此の五口以上とは團體としての寄附であつて、所屬會員の前寄附金

が合計五口以上になると云ふ意味ではありません。以下略。』

以上の説明によるひ有議決權代表なるものはその會より一人なるか五人なるか或は人數に制限なきか、又は一人に一票なるか、五口に五票なるか、一人にて何票をも使用し得るか、數年間に亘りて研究立案せられたる神戸案にその明示なきは遺憾なり。かゝる點を明確に規定せずんば禍を後世に残すべし。余の如き若し野心と財あらば多額の前寄附金を以て全日本のエス運動を支配せん。

五口の寄附をなさざるの故を以て誠意なしと斷定するは正に劃期的飛躍的なるべし。寄附の多寡を以て誠意の程度を計るバロメーターなりとするは蓋し斬新なるべし。

よしんば誠意あるもかゝる前寄附行爲に賛成せずんば寄附せざるべく、かゝる場合有能なるエスペランチスト又は會にして議決權を失ふに至るべし。

又十九條に規定せられたる委任の件に就きては余は全く理解するを得ず。

一つの會、聯盟等はその團體内に於て委任狀を發行する必要あらざるべし。代表者あればその必要なく又代表者なくして出席者ありその出席者に委任狀を與ふれば之即ち有議決權代表なるべし。受任者は有議決權代表たる事を要すとの但書は何を意味するものぞ。神戸エス會の説明には「出席有議決代表だけでやるとなると變な事になりますから委任狀を認めました。——」とあるも余の如き無智無學の者にはその意を解するを得ず。余の辛うじて想像し得るは、ある會に於て事情ありて出席者なく有議決權代表を送り難き場合個人若しくは他の會の出席者に議決權を委任する場合のみ。されどかゝる場合委任されたる會の代表は果して委任したる會の意志意見を完全に理解し之を遂行なし得るや。受任者は自己の意見には自己の屬する團體の意志と委任したる團體の意志と相反するを知りつつも委任者の意志に従はざるを得ず。

根本が變な事なる以上委任狀の行使は何所までも變な事に終始し大會をして全日本エス運動の最高會議機關たらしめんとする意圖と反すとの結論に到達するに非ずやとは余の最も懸念する所なり。

代表機關設置の理由は明確ならざるも提案者の説明によれば大會に實行力を附與せんとするにあるが如し。趣意書に論じて曰く、「本案は、大會協議會に於て、現存するエスペラント機構中より中正にして全國的且最強力なるものの一を選定し、以て大會即大會構成分子の代表機關たる事を委嘱せんとするものなり。」と。又日本エス界の現状に於て此の代表機關たり得るものは日本エス學會を措いて他に無しと稱するも過言ならざるべしと論ぜり。

原案第二十條に代表機關の選定は毎大會之を行ふと規定したり。代表機關の設置は可とするも何故に之を毎大會に選定するを要するや。學會の實力を認むる事前述の如くんば、何が故に之を學會に委ねざる。學會以外に如何なる統制の機關ありや。提案者の謂ふ中正にして全國的且つ最強力なる機關は學會以外には有らざるべし。代表機關の機能を學會に一任するも不可ならざるべし。何ぞ毎大會選定の如き手数を煩はさんや。若し將來學會以上の強力有能なる機關組織されし時は規定を以て或は規定を變更して之を該機關に一任すべし。毎年選定するが如きは煩はしきのみならず、學會の實力を殊更に無視せんとするが如し。余の愚見を述べんに、提案者は將來學會以上の強力機關の出現を慮かる者の如きを、エスペランチストとしてかゝる學會に對抗するが如き機關の出現を望み、又はかゝる機關を組織し以て日本エス界を昏迷に陥し入れ、日本エス運動を破壊せんと欲するものあらんや。

吾人が日本のエス運動の統制強化を望み、之が發展、エス語の普及を望まんには、飽迄も學會をして吾等が運動の中心たらしめ之を發展せしめこの生長を育成するにしかず。

多くのエスペランティストの事なれば中に或は學會に對して不満を抱く者もあらん。或は學會を以てその機能不完全にして改良すべきなりとする者もあらん。若し學會にして缺點多く其の活動信頼に反くものありとせば、そは單に學會當事者のみならず、會員たりと否とを問はず、全エスペランティストの責任ならざるべからず。學會は日本エス運動の中心機關にして日本のエス運動を指導し得ざるべからず。吾人は宜しく協力して之が運行を正さざるべからず。

又代表機關の設置そのものは更に研究を要すべく、大會決議の處理に就きては、その性質種類等によりは或は委員に附托し、或は學會に附托する等適當なる方法あるべく、その遂行は大會委員會又は學會等にて監督する等の方法あるべし。

二十四條の規約によれば學會は（學會をして代表機關たらしむる事は神戸エス會の説明あり學會以外に代表機關たり得べきものなき事前述せる如し）自己の公務遂行の爲會合することを得とあるも、大會に於て學會總會を開くは當然の事にして特に會合を許可するには當らざるべし神戸エス會はその趣意書中に「或は大會席上最近の如く獨立の一行事として學會總會を開催するが如きは專横と斷ず。従前は分科會の一として行はれしものと記憶するが夫は合理的なりと解釋す。實際問題として參加者の大半が學會會員なる實情より、他の分科會と時を同じうして開催するは不可能ならんも、とまれ非合法なる議を免れざるべし。」と論ず。之によりて見るに學會總會をも認めず、單に代表機關なるの故を以てその會合を許すなるべし。

前述せし學會を中心機關なりとす吾人の見解よりしては、大會は寧ろ學會總會を中心として開催するが本來にして合理的なりとす。之を然らずとするは學會を一個のエス會の如くに輕視するものに非ずや。元來日本エス大會は學學の總會にその基に發したるものにして當初は日本エスペラント學會總會と呼稱したる事當時の記録に見えたり。其の後學會に於て總會を大會と別個に開催すと言明されたる事ありや、余は不敏にして未だ其の事あるを聞かず、大會參加者に對して鐵道の割引をなす事等も之は財團法人たる學會の總會の故に可能なるなり。若し學會を以て寒村の一グループ並に扱はんには、從來の大會を廢し學會より分離せしめ新たに之を開催せんにしかず。

學會中心主義に就きては他日論ずる所あるべし。

神戸エス會は劃期的飛躍的なものゝ一として前寄附金なるものを提唱せり。從來招請地の奇捨に依頼せるため、大會の開催不能に至り或はその規模貧弱に過ぎ、開催地の同志を財的窮乏に陥れ運動の活氣を失ひ、一般大衆に對する宣傳の資に事缺く等の缺陷を除かんが爲に考察されし者なる事は趣意書に論じられたるが如し。

大會費用はその大部分を寄附に仰ぐべく之を早期に收集するはその達成上極めて必要、有意義なる事にして何人も之に異存なき所なるべし。僅か一口一圓の寄附の問題に反對する者は無かるべしとは何人も信じて疑はざる所ならんも余の杞憂するは、開催地未決定の大會の爲一ヶ年半も以前に寄附を集むる事に困難を伴はざるや思考せらるゝ點なり。況んや之に彼の議決權問題を伴ふに於ておや。

概ね大會の寄附は開催地定まり大體計畫なりて然る後始めてその大會の爲めに助力せんとするは残念乍ら人情なり。總て吾人が事を爲さんとするに、人間本來の感情を沒却するを得ず。當初は相當多額の寄附集らんも年を重ねるに従ひて衰ふるは明かなり。又之を以て大會計畫の基礎標準たらしめんとするが如きは聊か無理なるべしと感ぜらる。

大會達成の爲寄附行爲の必要なる事は論を俟たざるも他に適當なる方法なきや一考を要すべきなり。（390 頁へ續く）

全 國 各 地 報 道

投稿注意:

1. 日本文にて・四〇〇字詰原稿紙二枚以内。
2. 締切大體毎月 15 日 (15 日以後到着のものものせることあり)。
3. 地方會誌を以て報道に代ふるをえす。
4. 寫眞は裏に必ず何の寫眞かといふ説明記入の事。
寫眞は返送せず資料として保存す。

岩手 ★盛岡エスペラント會——◇8月17日、第3回會話會を急に變更された會場、MER 事務室で持ちました。折から來盛中の大川、松本兩氏を迎へ、兩氏にとつては絶対に忘れることの出来ない懐しい此部屋で時を忘れ、9人の我等の仲間が語り合ひました。◇毎水曜日、細々ながらも例會を續けてゐます。來週から (22 日以後) 輪讀に移る豫定、用書は Karlo. やつと中等科まで迎ふことが出来ました。◇今後當分の間、月例會話會場を MER の事務室と致します。

青森 ★竹館エス會——8月3日。夜7時半より第一回總會開催、出席者7名9時散會。本總會で縣立柏木農學校圖書部にエスペラント書籍寄付の件決議さる。其他本會運行上の必要事項に就いて協議。8月20日——24日。毎日午後1時30分より平均3時間初等講習會を開催、場所、竹館尋常小學校參加者7名、講師木村正義氏、用書「短期講習書」、25日午後平賀川へピクニック、エスペーロ、タギーダヨの練習、水泳、談樂後歸宅。



竹 館 エ ス 會

★弘前エス會——暫くどんな活動もしない。委員山本、柳田兩氏は今度一身上の都合によつて會を退く。依つて通信宛所は本會事務所弘前市富田大通り二丁目小松印刷所方に變更す。

帶廣 ★學會帶廣支部——豫て當地で靜養中であつた原田三馬先輩が8月13日に北海道銀行帶廣支店へ轉任と決定した。先月副會長菅沼氏外二名を旭川へ送つた當會は非常なる痛手を受けたが原田氏の帶廣復歸と共に俄然勢を増し後日の飛躍へと準備中である。7月29日より從來の會合を廢し塚田會長方で Marta の輪讀を毎週日曜午後7時からすることに決定した。8月24日時局に鑑み支部より國防獻金5圓也を十勝毎日新聞社に托す。尙機關誌は時節柄當分休刊の事に決定した。8月29日第1回輪讀會、出席者塚田、長谷川、佐藤、沼田、紺野の諸氏。9月5日第二回輪讀會出席者塚田、長谷川、佐藤、沼田、紺野の諸氏。(沼田報)

名古屋 ★名古屋エス會——◇9月6日より毎週月曜日 19時半より中區鐵砲町2丁目白木氏方で輪讀會を催す。用書は城戸崎氏のザ讀本第1巻、出席者6日6名、13日4名。◇9月9日19時半より白木氏方で9月の木曜會開催。◇8月村上幸雄氏は今次〇〇で入營。◇會員丹羽正久氏の盡力により黑砂糖入化粧石鹼の包紙に“Sanigakaj nutra por via haŭto”のエス文を入れさせることに成功した、そして若し相當の反響があれば包紙のみでなく石鹼にもエス文の新型を作つて賣出される筈、各地同志の激勵を乞ふ。製造會社は名古屋市東區千種本町大正石鹼製造所である。

大阪 ★大阪エス會——豫告通り毎火曜日例會開催。Kunvenejo は 8, 9 月中は“Trapezo”喫茶店。會場の都合で専ら會話練習を行ふ。——夏期短期 Esp. 講習會は8月27日を以て盛會裡に終了。講習生32名は殆ど全部最後まで出席した。30日 Kursafesto を公會堂大洋軒食堂にて開催。malnova samideanoj の“Espero”に答へて Kursanoj は“Sankta Luĉio”を合唱する等大いに氣焰を揚げ、又中等講習會に於ての再會を約して散會した。——大阪市役所に勤務して居られる本田、ヒワの兩氏は去る8月初旬より廳内職員希望に應じて、Esp. の講習會を開催。聽講希望者數十名に達するさうである。

★O.E.S. 豫告。——毎週火曜日例會開催。會場は東市民館、“Historio de Esp.”研究。但第3火曜日は“Trapezo”喫茶店にて會話會。——O.E.S. 總會及 komuna vespermanĝo 豫告。9月28日午後6時半より、中之島公會堂地下室大洋軒食堂。當日最近海外より歸

朝された同志安田博士の講演がある筈。會費60錢。



大牟田エス會

新聞雑誌とエス

- ★中央新聞(9月3日)——海外ニュース欄エス十年記念祭。ワルシャワの大會がポーランド大統領及びポーランド政府の後援のもとに開催されたことを報じてゐる。
- ★報知新聞(9月6日)——エス五十年記念祭。
- ★都新聞(9月2日)——海外文化。エス五十年記念祭。
- ★信濃毎日(8月16日)——學藝欄。中間外國語の合理化。安治汎英。英語課に代つてエス語を導入すべきを論ず。
- ★婦人公論(9月號)——口繪。語學の勉強。英佛獨露語と並んでエスペラントの研究家として万澤まき子嬢のサツソウたる姿。その感想。
- ★北安田パンフレット——曉鳥敏著。「ありがたいお話」書中エス語につき數頁のべてゐる。
- ★興正(9月10日號)——英國博物館見學の一節——高橋邦太郎。讚美か嘲笑か?我國人は之を何と見る——高橋邦太郎。

個人消息

- ★渡邊時雄氏(名古屋)8月22日御結婚と同時に堀部と改姓、名古屋市西區江川横町1の1に御轉居。
- ★矢崎富美人氏(名古屋)の學位請求論文は9月7日の名古屋醫大教授會を通過。

Farmacia Krestomatia 近日上梓

東京の藥學エスペランチストを以て組織する東京藥學エスペランチスト懇話會では、兼ねて懸案中であつた「エスペラン藥學文範」を愈々出版する事となり、本春以來、三雲、伊藤、山田、田畑の編輯委員が鋭意草稿を審議中の處、九月末を以て編輯會議を終了、近く上梓の運びを見る事となつた。

エス語曲歌練習に就いて

本月は、いよいよ „AL LA FRATOJ“ の當選曲が發表されます。

應募歌曲は、みななかなか素晴らしいものばかりださうでございます。私どもも、これらの練習に大いに力をいれたいとおもひます。

午後2時から同5時まで、やつてをります。遅刻をお氣にとめずには是非お出掛け下さいませ、お待ちいたしてをります。

(ロンド・ハルモニーア)

Ni Korrespondu

PEJČO P. PEJČEV

Studento de Veterinara Medicino

Selo Bulgarovo

Gare Bulgarovo

(BULGARIO)

Mi deziras korespondi en sciencaj temoj kun D-ro aŭ studento de Veterinara medicino el kiu ajn loko de via lando.

讓 度

タイプライター譲りたし

エス語用スーパーシグノイ付“Oliver” Standard visible writer. 機能完全。價 ¥48 御希望の方へ精密寫眞及 literaro 見本急送します。(三重縣一志郡波瀬村 林苔泉堂)

おことわり

會員諸賢より多大の好評を得た、同志田畑喜作氏原作の《失はれた大地》は、本誌編輯の都合上、第一幕のみをもつて、第二幕は割愛いたします。

なほ同戲曲は、雑誌「劇場」その他へ近く掲載せられる筈でございますから御希望の向は同誌その他に於いてお読みくださいますようお願いいたします。(編輯部)

„KOREA ESPERANTISTO“

創刊を祝す

◇菊判、活版刷、20 ペイヂ。◇1 部 30 錢、
1 年 1 圓 20 錢、振替京城 26641. ◇發行所
——京城府城北町190 洪亨義方朝鮮エスエペ
ラント文化社。

——創刊號内容——

Redakcia saluto H. Ŭ. Hong
Vortaro kaj Gramatikoj de la Korea Lingvo
..... J. Okamoto
Granda ĝojo E. Ĉ. Balenego
Saluto Z. Tojokaŭa
Al mia kara amiko H. en la ekstrema
oriento Walter Poppek
La indigno de l' Anĝelo C. M. Li
Dum dekkvin minutoj H. S. Eŭm
Kanto de Radio-Gimnastiko Ĉ. Sirouĉi
Pioniroj en Vilaĝo H. Ŭ. Hong
Amo vokas I. S. Kim
Tigro kaj vulpo S. F. Montego
Redakcia Angulo

★ „KOREA ESPERANTIST“ のレダクトー

ロは次の様に書いてゐる。

per Esperanto ĝustan Koreion al la tut-
mondo sed ne miksite kun la politika afero
...(略)... en nia gazeto aperos diversspecaj,
nome natursciencaĵo, amuzaĵo, novaĵo, lite-
raturaĵo, k.t.p. sed plej multparte Koreaj
literaturoj, ĉar ni deziras kaj intencas
prezenti al la alilingvanoj tutan bildon pri
koreio.

★親愛なる半島の同志諸氏の尊き努力の結晶
コレア・エスペランティストの輝かしい門出
に、會員諸賢の御聲援をのぞんでやまぬ。

編輯後記

最近本誌の發行が遅れて、同志諸君に申譯
ないと考へてゐます。段々スピードアップし
てもとの速力に恢復します。

本誌の印刷を永くやつてゐる一匡印刷所が
目下三階のスマートな建物を新築しつつあり
ます。木の香りの強い、明るい光線の下で吾
々の 10 月號の校正を終へます。

(久保・酒井)

されど既に神戸の同志に於て充分なる研究の結果前寄附行爲につきては「充分に自信を有す
るに至りたるを以て」と言明されたる事なれば余輩の如き淺學の徒又何をか言はんや、以て老
婆心を披瀝せしのみ。

神戸エス會にて提唱する所は「飛躍的軌條を敷設し以て大量輸送的に爆進すべし」となすも
吾人の必要とする大會規約は單に過去の大會の行事より歸納し之を改善或文化したるものにて
足り特に劃期的飛躍的因子を必要とせざるが如し。歴史は飛躍せず、過大なる飛躍は失敗の因
なるべし。吾人の義務とする所は從來の大會に於ける不合理矛盾を可能なる範圍に於て之を改
良するにあるべし。

以上余の述ぶる所字句甚だ杜撰、文章疎漏する所多々有らんも以て余の疑點を披瀝せしのみ
大會規約完成を思ふの餘り或は神戸の同志諸兄の感情をを損ねたる點あらんか、乞ふ宜しく寛
恕せられん事を。

終に臨み大會起草委員の多年に亘る御研究の速かなる發表を期待し又神戸エス會の諸兄の努
力に深甚なる感謝の意を表す。

エスペラント運動後援會

報告 (第二年) 5

8 月中は幹事會を開催しなかつた。しかし後援會の仕事は着々進んでゐる。

★世界教育者會議へ宣傳

同會議に宣傳したことは R. O. 先月號の「世界教育者會議とエス」欄に報告の通りである。これ等の仕事の雑務、奔走には主として磯崎氏に依頼した。

★作曲募集

“Al la Fratoj” 懸賞作曲募集は、岩下氏等の盡力で、應募規定を決定し、その印刷物を専門家、團體、中等學校等に發送した。メ切りは 9 月 15 日であつた。メ切りまでに學會宛送られた曲數は、42 人 44 曲である。目下堀内敬三氏の手許で審査中である。いづれ優れたもの數曲を選出して、在京の同志の前で歌はれる筈。その後一個を決定する豫定

文筆家問合せ回答

8 月號で報告の通り回答を寄せられた文筆家 57 人の方々の内容を下に掲げます。この機會に御多忙中を、御返辭下さつた文筆家各位に厚く御禮申し上げます。

質 問 事 項

1. 貴下の著作物中、エスペラント語に翻譯、世界に紹介するのに最も適當とするものを御推薦下さい。
2. エスペラント語は日本文學を國際的に紹介する爲に、適當な言語と思はれますか。

(順序五十音順)

浅 原 六 朗

1. 新潮社出版「混血兒デョーヂ」「霧の夜の客間」「青きドナウ」等。
2. 適當と考へます。凡て國際的なものはエスペラント語で出ればいゝと想つてゐます。

伊 藤 整

1. 「馬喰の果」「生物祭」等。
2. 賛成です。

宇 野 浩 二

1. 「子を貸し屋」(春陽堂文庫)、同名の本の内「枯野の夢」「一週間」(「枯木のある風景」の内)。白水社版。
2. 最も適當な言語と思はれます。

大 下 宇 陀 兒

1. 風、紅屋の庖厨、毒、その他。
2. エスペラント譯、海外に紹介は結構なことに存じます。

大 槻 憲 二

1. 甚だ面はゆき御質問にて恐縮。「世界に紹介するに適當」であるかどうかは別問題として小生として希望したきは拙著「戀愛性慾の心理とその分析處置法」中の二三のやゝ獨創的と自信してゐる章です。
2. 小生エスペラントに暗く、御質問に對してはお答への資格がないやうです。

岡 澤 秀 虎

1. 未だ左程の價值あるものを持ちませぬ。
2. 適當と思ひます。そしてこの一世紀の中に偉大な役割を演ずるものと信じてゐます。

岡 田 三 郎

1. 「涯なき路」「春の行列」。
2. 小生にはよく解りませんが、これまでの譯著のことを承り適當の言語でなかつたら、さうは參らぬのではないかと愚考されます。

岡 田 禎 子

1. 残念乍らありません。
2. 思ひます。

小 川 未 明

1. 野薔薇、赤い蠟燭と人魚、幸福に暮した

- 二人、等々(以上「未明童話集」中より)。
2. 日本文學を世界に紹介するために、國際語 에스ペラント語に翻譯されることを最も適當と信じてゐます。

沖野岩三郎

1. 私に純日本の創作童話數十篇あり、これを御紹介願へれば幸甚です。
2. いふまでもありません。

加納作次郎

1. 「世の中へ」等。
2. お説の通りに存じます。

上泉秀信

1. 戯曲「村道」。
2. 適當なものと考へます。

加藤一夫

1. イ 「聖書」日本人の心と頭とで聖書を書きかへたものです。西洋人にも是非讀んでもらい度いと思ひます。
ロ 小説キリスト(これはまだ出版されておられません。五六月頃第一書房から出ます)これは是非西洋人に讀みたいと思つて居ります。
ハ 「農本主義」及び「土の哲學」。
2. 非常に適當な言語だと思ひます。

上司小剣

1. 蜘蛛の饗宴。
2. 他の歐洲語にくらべて、たしかに適當と存じます。

川路柳虹

1. 私の詩のどれでも翻譯に移しうると存じます。
2. 私はザメンホフ博士の偉業に勿論敬意を表してをります、然し 에스ペラントが眞に國際語として現實に世界の國語を統一すると云ふことは理想であつて不可能と信じてをります。今日 에스ペラントチストだけが 에스ペラントに關心をもちかつ熱情をもつにをられることに敬意を表しますが小國以外歐米に於て 에스ペラントによる作品の發表が自國語を凌ぐ域には達してをらぬ實情に鑑みこれに充全の期待をもちません、かつ 에스ペラントチストのインタナショナルズムが色々政治的に利用されることにも不滿をもつてをり

ます。翻譯としてむろん日本文學を 에스ペラントで示すことに異議はありませんがこれの國際化といふことは英、佛、獨、西、伊語以上には到らぬと思ひます。卒直に所見申述べます。

貴司山治

1. 吉雄忠次郎(文藝 昭和十年八月號)、土生玄碩(行動 昭和十年八月號)。
2. 小生 에스ペラントをよく存じませんので何とも申上げかねます。

北村喜八

1. 戯曲「シーボルド」(自分としては特にこれを自薦します)發表の雑誌は別送します。
2. 日本語を移すのに適當な言語かどうかについては色々考究しなければ何とも申せませんが、紹介といふ點では適當以上に必要だと思ひます。

窪川稻子

1. 牡丹のある家(中央公論社版)、一袋の駄菓子(文藝春秋昭和十年五月號所載)等よろしからんと存じます。

黒島傳治

1. 小生の諸作は數年前のもので、翻譯してもといふほど自信のあるものはございません。
2. 至極適當と思ひます。

甲賀三郎

1. 拙作は「荒野」が南晶世氏によつて 에스ペラントに翻譯されましたが別に自薦出来るやうな自信のある作はありません。手塚龍太のシリーズ、「鍵なくして開くべし」など、一寸外國の探偵作家に紹介して貰ひたいやうな氣がします。
2. 小生はエス語には全然門外漢でこの國際語が果して各國固有の歴史的背景や傳統的感情、民族的思想などを十分に現はすに足るものであるかどうか存じませんが、紀行、論說、説明などは兎も角、文學殊に小説に適するかどうかといふ事については一抹の不安を持つてゐます。

小牧近江

1. 拙著「異國の戦争」(世界大戦前後十ヶ年偶々フランスに滞在。小生少青年時代の貧しき記録)。

佐々木茂索

1. 私の著作の中にもあるかも知れないが、自分のものは先づ措かう。それより森鷗外(例へば「堺事件」の如き)芥川龍之介(例へば「西方の人」「續西方の人」の如き)はエスペラントにして紹介するには適しはしなからうか。
2. 失禮ながら、現在では英語に若かない、しかし爲さざるに優る萬々也。前進を祈る。

佐藤惣之助

1. 拙著詩集「西藏美人」の中の、東亞風物詩なぞ。(現代詩社發行、昭和五年刊)
2. 英語よりは適當だと思ひます。

佐藤春夫

1. 拙作にはろくなものはありませんが「お絹とその兄弟」といふ短篇などは外國人に讀まれても了解されるし翻譯にも効果があるものかと思はれます。
2. エスペラントに關する智識が貧しいため十分な自信を以ては申されませんが他の外國語よりは適當であらうかと存じます。

志賀直哉

1. 「小僧の神様」「眞鶴」「清兵衛と瓢箪」「赤西蠣太」等。
2. エスペラントが段々盛になるやうならば非常に結構であり、適當な言語であると思はれます。

島崎藤村

1. ふるさと。をさなものがたり。右共に童話集。

須藤鐘一

1. 寸劇「人間改造」……一幕。右は古く同人雑誌に出したのですがその中のアイロニーを今でも廣く見てもらひ度いと思つてゐます。

高須芳次郎

1. 新潮社發行「光は東方より」の論文集中の日本文化に關するエッセイ。岡村書店發行的隨筆「平家の人々」「近松の人々」「西鶴の人々」。
2. エスペラント語は日本文學を世界に紹介するについて最も適當の語と信じます。

高橋邦太郎

1. 私の作品の中では戯曲「榎本武揚」だけ。
2. エス語こそ日本文學を世界に紹介するに最も適當なものと思ひます。

田中純

1. 「妻」。
2. YES.

鶴見祐輔

1. 拙著中別に翻譯に値するものも無之候得共今迄英、佛、西語等に翻譯致され居候は小説「母」に有之候。

徳永直

1. 短篇「彼岸」昨年八月中央公論所載。
2. 適當と思ひます。
日本語が外國語になるのは非常に困難のことであることを私は「太陽のない街」「失業都市東京」等の翻譯によつて知つてゐますから、エスペラントなどはまづ一等近道であらうと思ひます。

中河與一

1. 博齒になる馬車(新潮社版「R 汽船」の中にある)。
ゴルフ(昭和書房版「ゴルフ」の中にある一篇)。
2. 夫々の國語の他に、國際語としてのエスペラントが存在する事は大變いゝ事と存ぜられます。勿論日本文學の紹介の爲めに、それにたよる事はこの上ない事です。

仲木貞一

1. 「孔子とその弟子」。
2. 適當な言語と存じます。

長田幹彦

1. 「旅役者」「母の手」(短篇作)(長田幹彦全集二、三卷中非凡閣)。
右は既グレッグ・シンクレア氏によりて英譯アメリカにて刊行されたもの。
2. 私は不幸にしてエスペラントを知りませんが、世界文化の發展に寄與する最大の手段だと信じてゐます。

中村星湖

1. 少年行、女のなか、釣ざんまい。
2. 無論、國際語としてエスペラントは無比のものでありますから日本文學を外國に紹介するのに適當です。

那 須 辰 造

1. 御質問の(一)、に就いては確然たる自信の作がありませぬから御答へ申し兼ねますが先輩諸文人の作品中、川端康成氏の「禽獣」宇野浩二氏の「枯野の夢」井伏鱒二氏の「川」等はいかゞでせうか、また國外へ紹介する意味に於て東洋的な精神の作品として志賀直哉氏の「清兵衛と瓢箪」日本的な戀愛文學として長篇でありますが近松秋江氏の「黒髪」及び素木レブ氏の「美しき牢獄」はよろしく、日本特有の心境小説の代表作として徳田秋聲氏の「勳章」葛西善藏氏の「子をつれて」及び「醉狂者の獨白」はいかゞでせうか。
2. に就いては私も嘗てエス語を學びしことがあり今もなほエス語の使命には同感致しをり、日本の小説を他國語に譯して紹介するよりはエス語に譯する方が原作の趣きをよく傳へ得ると信じてゐます。

額 田 六 福

1. 「眞如」戯曲……一幕。
これは帝劇にて梅幸、幸四郎、宗之助、勘彌等にて初演以來、各地大小劇場は申すまでもなく、女學校の演藝會にもしばしば繰返されてをります。日本精神の一部を示すものとして自負してをります。

橋 本 英 吉

1. 長い作品では「炭坑」。短篇では農村を扱った「自然と人生について」等があります。
2. 英獨佛語より以上にエスペラントが日本語の感に移すのに適當かどうか知りませんが、尠くとも、英獨佛より覚え易いと思はれる點で今日國際的に普及するものと思はれますので、先づ適當と思はれます。

畑 耕 一

1. 小説や戯曲は大分翻譯されてゐるやうですから私のものなら隨筆集「ラクダのコブ」がよからうと存じます。
2. エスペラントは既に國際語です。これ以上にいろんな考案をしたつて、いたづらに煩瑣になるばかりです。エスペラント一本鎗で進むべきです。

林 房 雄

1. 「青年」「壯年」。

どちらも長篇ですから量に於て不適當かと思ひますが日本を傳へるために最適と信じます。

2. 現在の瞬間に於ては英佛獨語にくらべて普及度が低いと思ひます。だが將來に於いては眞の國際語となるでせう。特に日本文學はエスペラント譯を通じて各國語に翻譯される機會が多いと考へます。

日 高 只 一

1. 私の著作中にはエスペラント語に翻譯するに適當なものはありません。
2. 若しエスペラント語が國際語としての有力ならば、日本文學を國際的に紹介するに適ませう。

日 夏 耿 之 助

1. 詩集黃眠帖。咒文。
参考。今迄上梓の佛譯本は詩集「黒衣聖母」より譯出せり。
2. 妥當と思惟す。
意見。今迄譯了せしエス語譯本中に森鷗外の作品なきは甚だ當事者の不見識なる次第と考ふ。

平 林 たい 子

1. もし機會があつたら、「夜風」(日本の農村の風物と生産關係とを一つの典型として示してゐる點に於いて)。
2. 適當です。御努力のほど祈ります。

平 山 蘆 江

1. 「唐人船」「西南戦争」。
右二篇は自信を以て推薦いたします。
2. 適當だと思ひます、但し發案者の精神が合理的であることを聽いてをりますゆゑ。

福 田 清 人

1. 「脱出」「キリシタンの島」(短篇集「脱出」所載)。
2. 適當と思ふ。

福 田 正 夫

1. 御趣旨日本文化のため、國際文化のためありがたく、小生など個人のものより現代日本詩人の作品を御撰り下さればありがたいと存じます。もしそのやうなことが可能なら、現在拙宅に日本詩人會の事務所あり、上級幹事諸員に計つて、作家

を選ぶ等の方法を講じたく存じます。御意見伺ひたく、どうぞ。

藤 森 成 吉

1. 小生の創作中エスペラント語で紹介していたぐのくに最も適當と思はれるのは、先月新協劇團が新宿第一劇場へ進出して演りました「科學追放記」(原作は「シイボルト夜話」それにつづく後半「三十年」(日本評論と中央公論へ載つたもの)。長篇小説で「渡邊華山」(改造社普及版)。
2. 國際的に紹介するのにおそらく最も適當な言語と思はれます。

細 田 源 吉

1. 小生の小説の内二三、左に書きつけます。「寡婦とその子たち」(中央公論昭和十年五十週紀念號所載、枚數およそ十八九枚)。「無上」(春陽堂發行、單行本「本心」と云ふ小生の短篇集中にあり、枚數およそ十四五枚)。「巷路過程」(同一表題の小生の短篇集にあり、中央公論の昭和五年三月號所載、枚數およそ七八十枚)。

堀 口 大 學

1. 思ひ當りません。
2. エス語を知らないので何とも申し上げかねます。

眞 山 青 果

拜復 御懇篤なる書面拜誦仕候。御申越の趣旨は千萬御同意にて、日本文壇のため盡御力下さる點は小生などは隱居生活ながら深く感謝申上る次第に有之候。さて御申越の拙作翻譯の事に候が、實を申せば小生の書きたる脚本などは文學と申す意味には甚だ遠く、その月々に、俳優の都合や色どりのために、當座の間に合せに書き下ろしたる所謂座付作者の作品のみに有之、娛樂雜誌に掲載せられて活字化さるゝ事さへ自分乍ら面はゆく存居り候もの故、今更れいれいしく外國の字に翻譯される事なぞは何とも以て堪え難き苦痛に有之候間、何卒小生だけは左様のこと御許し下されたく希望仕候。斯く申上ぐれば、或は惡謙遜などと思召し候はんも、決して左様にては無之、數年

前各氏の全集が流行せし時も、小生は自作の拙陋を深く恥ぢて其の舉に參堂いたしかねたるやうな次第にて、全く衷心より拙作などは文學と申すものに非ずと心得居候へば此の點あしからず申し候。

水 上 瀧 太 郎

1. 無し。
2. ?

宮 地 嘉 六

1. 左に愚作中のものをあげてお答へ致します。いづれも短篇です。「温泉場スケッチ」第一第二の二篇。大正末年頃發表、新潮)。「河畔」(大正七年頃の中央公論)「禁慾者」(近く某誌發表の短篇)

宮 原 晃 一 郎

1. ございません。が、ごく短かい童話なら四五篇はありませう。
2. 然り。

森 下 雨 村

1. 小生自身のものには紹介していたぐやうなものはありませんが、江戸川亂歩、木々高太郎兩君の短篇作品の中には外國へ紹介しても恥しくない探偵小説が各五六篇はあると思ひます。

矢 田 掙 雪

1. 私のは長大なものゝみ故、翻譯の實際問題として困難と存じますが「江戸から東京へ」「太閤記」のうちには適當の箇所もあるうかと思ひます。

山 内 義 雄

1. 小生は専ら翻譯をやつてゐますので、エスペラント譯に適當なものといつては申し上げられません。
2. エスペラント自體をまだ學んでみたことがないので、果して純粹な文學的立場からいつて日本文學の翻譯に適する語であるかないか、明答致しかねます。

BULTENO DE LA **XXV**

JAPANA ESPERANTISTA JUBILEA KONGRESO

1887—1937

Numero 2

TOKIO

Oktoebro 1937

NI KURAĜE NIN TENU

— La Kongreso estu nia Oazo —

Ne nur la japana esperantistaro, sed ankaŭ la tuta homaro travivas nun certe tre malfacilan tempon. Politike kaj ekonomie la aferoj ne bone iras. Plumba nubaro kvazaŭ pezas sur la teron. Mallumo kaj fulmotondroj. Ventas, ventas tra la mondo. Ĉu pro ĝi nia verda arbo forskuiĝos kaj velkos? Ne, neniam tio okazos, ĉar nia arbo jam havas milojn da radikoj kaj radiketoj, ĝin fortike subtenantaj.

„Longe daŭros ankoraŭ malluma nokto, sed ne eterne ĝi daŭros“

Rememoru tiujn kuraĝigajn vortojn Zamenhofajn. Ni kuraĝe nin tenu. Ni estu ĉiam esperantoj. Kaj nia Kongreso estos la vera kuraĝigejo por ni esperantoj. Do venu multope al la Kongreso, samideanoj el ĉiuj partoj! Venu al tiu ĉi verde ombrita oazo de la dezerto, por tie vin refreŝigi kaj refortigi! Vin varmkore atendas la malnova konateco!

TAKUMA MINODA,

Prezidanto de la Organiza Komitato.

PROGRAMO DE LA KONGRESO

Unua Tago: Dimanĉo, la 21 de Nov.

10-12 h. Akcepto; Interamikiĝo.

13 h. Malferma Soleno; Ĝenerala Kunsido de JEI. 16 h. Fotografado.

18 h. Komuna Vespermanĝo; la Premiita Muziko „Al la Fratoj“, ĥore kantata de „Tokio Liedertafel-Verein“; kelkaj Esperantaj Kantoj.

Dua Tago: Lundo, la 22 de Nov.

Matene: Fakaj Kunsidoj (serio 1).

13 h. Kongresa Universitato (1).

19 h. Laborkunsido: Temoj diskutotaj (1) „Pliriĝigo de Esperanta Literaturo“ (2) „Esperanto en Lernejojn.“

Tria Tago: Festotago, Mardo, la 23 de Nov.

Matene: Fakaj Kunsidoj (serio 2).

13 h. Raportoj pri K. L. kaj IEL; 15 h. Kongresa Universitato (2).

19 h. Raportoj pri la Fakaj Kunsidoj; Amika Vespero. Fermo.

LA AKTIVJOJ DE LA ORGANIZA KOMITATO

21 Junio: Kunsidis 18 K-anoj; pri la publika konkurso de la muziko por „Al la Fratoj“, premiota per afabla monofero de Gesinjoroj Iŭaŝita.

19 Julio: Pri la ejo por la publika kunveno de propagandaj parolodoj kaj ekspozicio; akcepto de la propono por Fakkunsido „Komerco“, la programo modifita.

16 Aŭgusto: Kunsidis 16 K-anoj; pri Ekskurso.

24 Aŭgusto: Kunsido de la Estraro de IEI pri la Kongreso.

21 Septembro: Kunsidis 11 K-anoj; la definitiva programo decidita.

委員移動

◎下記委員は離京または都合により辭任せられた:

原田三馬 高木貞一 多羅尾一郎
比嘉春潮 中垣虎次郎 泉 茂雄
大島義夫 山鹿泰治 殷 武巖
有馬保夫 磯部幸子

◎大會のため最も盡力せられた原田三馬氏は病氣で北海道へ歸られ入院せられたが、既に退院。同地の勤務となられ再上京不能となつた。御健康を祈る。同じく高木貞一氏は會社より奉天へ御轉勤。有馬保夫は入營せられた。磯部幸子嬢は再度渡米せられ、カルフォルニア州バークレー大學に在學せられてゐる。

◎Bulteno 前號大會組織委員幹事名簿中『小西紀正』は『小西紀生』の誤植。

地方會及び

參加會員へ急告

◎發會式に於て代表者をして挨拶せしめることを欲せられる地方會は

ア) 10月末日迄に申込みのこと。

イ) 挨拶はエスペラントに限る

ウ) 代表者は必ず mandato を携帯、發會式前に書記へ御提出のこと。

◎分科會に参加希望の方は豫め申込み置かれたし。

◎大會參加申込みは『紀念メダル』製作の都合がありますのでなるべく至急申込みされたし。べ切 10 月末日(以後の申込みの方にはメダルが無くなるおそれあり)。

◎五十周年紀念大會を意義あらしむるため各地方より多數參加者ある様大に御勧誘御協方を乞ふ。

大 會 次 第 (變更)

I 十一月二十一日 II 二十二日 III 二十三日

日	午 前	午 後	夕
I (日)	受付 10-12 交 歡 會	13- 發會式、學會總會 16- 紀念撮影	18- 晚餐會。懸賞當選 曲發表、其他
II (月)	分 科 會 (1) (佛教、キリスト教、文 學、科學、實業)	13- 大會大學 (1)	19- 協 議 會
III (祭)	分 科 會 (2) (鐵道、婦人、醫學、藥 學、電氣、學生、教育)	13- 言語委員、IEL 委 員報告。 15- 大會大學 (2)	19- 分科會報告。 懇談會。閉會式。

◎第一日『晚餐會』後 „Al la Fratoj“ 當選懸賞作曲募集の作が『東京リーターフェル・フェライン』合唱團により歌はれる。なほエスペラントの歌の數曲の合唱もある。多數晚餐會の參加を望む。

◎第二日夕『協議會』に於ては議題『次回大會開催地の件』協議。諸報告の後次の二問題に就き討論を行ふ：

I. エスペラント文獻の増加方策

II. 學校にエスペラントを導入する方策

◎第三日夕『懇談會』は學會主催でエスペラント五十年、日本エス運動三十年をしのんで座談的に會談し、おわかれをしたいと云ふ趣向です。

◎分科會 9 月 15 日迄の參加申込は

文藝 9	佛教 5	教育 3	實業 2
鐵道 7	醫學 4	基教 3	電氣 1
科學 5	藥學 3	學生 2	婦人 1

大會參加申込者 NIAJ ALIGINTOJ

(九月十五日迄 Ĝis la 15 Sept.)

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 48. 山崎弘幾 (東京) | 56. 池田峰秋 (帶廣) | 64. 鈴木博 (東京) |
| 49. 吉田太市 (東京) | 57. 右近秀義 (東京) | 65. 井村榮一 (東京) |
| 50. 岡崎千一郎 (苫小牧) | 58. 安達榮一 (東京) | 65. 淺田一 (東京) |
| 51. 木村金松 (京部) | 59. 伊佐早博 (東京) | 67. 小林胖 (東京) |
| 52. 柳原弘 (岐阜) | 60. 三雲隆三郎 (東京) | |
| 53. 石堂清俊 (東京) | 61. 福富義雄 (東京) | 〔正誤〕 前號所報申込者名 |
| 54. 加藤孝 (熊本) | 62. 宮崎估武 (長野) | 簿中『18矢吹とよ子』は『18 |
| 55. 城戸崎益敏 (大阪) | 63. 由比忠之進 (名古屋) | 矢次とよ子』の誤植。 |

エスペラント本時代来る!?

四六判二百ページ僅か 1 圓

劃紀的出版 'EPOKO' Libro-Klubo 會員募集
前 金 不 要

良い書物をやすく提供するのが目的のこの會へ入會するには、申込金は勿論、豫約前納金など、すこしもいりません。住所姓名を書いてお申込みになれば、それでよいのです。會員には、二ヶ月毎に一冊、二圓の書物を一圓で提供します。

規 定

1. 會員になるには、住所氏名(ロオマ字、漢字兩様)をはつきり書いて申込めばよい。
2. 會員には 2 ヶ月に 1 冊づつ出版される書物を特價で頒つ。
3. 特價は、1 冊につき 1 圓、會員外は定價 2 圓。
4. 會員は、すくなくも、ひきつづき 3 冊を買ふ義務がある。
5. 退會は、1 ヶ月以前に通告しなければならない。

・ 第一回配本は十一月の豫定 ・

第 一 次 出 版 豫 定 書

Agatha Christie: MURDO EN ORIENTA EKSPRESO

このなだかい女流作家の戦慄の傑作をまだお讀みにならない方は、ぜひ、このエスペラント譯で!!

P. G. Wodehouse: LA PRINCO KAJ BETTY

ウッドハウスのユウモアにとびつかぬ人がモダン世界にありませうか?

H. G. Wells: LA TEMPO-MAŜINO

ウェルスの未來記は決して荒唐無稽の空想小説ではない。これは、人類文化の歴史を究めた科學者の正確な計算の上に立つ豫言書である。

申 込 所

東京市本郷元町 財團法人日本エスペラント學會 振替東京 11325 番

安心して 推薦できる獨習書

外國語の素養ある者のための國寶的名著

小坂 狷 二 著

エスペラント捷徑

四六判・150頁・50錢・送料6錢

著者は云ふまでもなく、わが國エスペラント界の最高權威。捷徑は、その人の名著で、幾十種のエスペラント獨習書中に比類なき至寶。一冊を前後、兩篇に分け、前篇は、豊富な文例を交へて、系統的に文法全般を教へ、後篇には、多くの讀みものを與へ、これに譯文と親切な註釋を加へてある。本書一冊を徹底的に讀破すれば、類書十冊について學ぶよりも遙かに確實な實力を獲得することができる。

☆

小學校卒業だけの人のための最好伴侶

日本エスペラント學會編輯部編

エスペラント講座

菊判・104頁・50錢・送料6錢

一卷を三篇にわけ、上篇は、外國語の知識の全然ないものにもよくわかるよう、全くのABCからはじめて、初等文法一般を説き、中篇は、高等文法、後篇は、親切な譯註附きの讀物を多數入れてある。これについて學べば、小學校卒業だけのものでも、十分な實力を得ることができる。

☆

上記講座の前篇だけあつめた

初等エスペラント講座

菊判・40頁・20錢・送料3錢

短時日にエスペラントの文法を一通り知らうとする者に好適。これだけ讀めば、あとは「新撰エス和辭典」一冊あれば、學習雜誌「エスペラント」のエス文記事は讀みこなせる。

☆

宣傳用書を兼ねた豆戰鬪艦

城戸崎 益 敏 著

エスペラント案内

四六判・48頁・30錢・送料3錢

一頁に一項目づつ盛つて、知識十五項、文法十五項、讀物七課。全文6ポイントと7ポイント活字でぎつちりつめこみ、内容は普通の本の百數十頁分あつて、これ一冊で、エスペラントとは何かといふことから、文法一般まで知りつくすことができる。寫眞版、凸版四十餘個入り、印刷鮮明、これを手にとれば、誰でもエスペラントをやつてみたくなること請合ひゆゑ、宣傳用として効果百ブロッツェント！

東京本郷元町

財團法人日本エスペラント學會

振替東京 11325 番

Revue Orienta の讀者は
全部 « テンポ » 誌の
購讀者とおなり下さい

- 我が國にエス語運動が起つてから既に三十年。吾等
はも早やエス語の顯微鏡的詮索のみに満足してゐる
べきではありません。視野を廣く大きく開いて世界
の動きを達觀し、躍進日本の名に相應しい吾等の文
化を以つて世界人類の爲に一大貢獻をすべきであり
ます。
- この目的と使命の爲に生れたのが『テンポ』誌であ
ります。發刊以來四年。哲學、科學、藝術の總ゆる
分野に亘る學術論文を發表し、内外時事問題に對す
る忌憚なき批判を試み、今や本誌は其の内容の豊富
と輕妙なる模範的エス文筆致とを以つて海外全エス
ペラント界に一大トピツクを提供しつゝあります。
- 今年は世界的に見てもエス語誕生五十周年といふ實
に意義深い年であります。この年を永久に記念する
爲にも最非『テンポ』誌の讀者とおなり下さらんこ
とを切望致します。近年、爲替相場に依る日本貨下
落の爲、外國雜誌購讀の不便利なことは御承知の通
りで、これらの不満を満たす爲にも『テンポ』誌は
理想的讀物であることを信じておすゝめ致します。
- 尙、テンポ誌の國際陣を強固ならしめ、將來の發展
を期して、今年の萬國エスペラント大會には吾等の
代表中原脩司氏をポーランドへ特派しました。同氏
は大會中各國著名エスピストに接近して『テンポ』
誌の爲に協力される様盡力されることになつてゐま
す。大いに御期待と御聲援下さる様、併せて願ひ
致します。

テンポ誌發行所 **國際時事新聞社**

京都市寺町夷川上ル • 電話上 2555 • 振替大阪 23404

« テンポ » 誌見本 15 錢 ☆ 購讀料(送料共) 1 年 1 圓 20 錢

新着洋書

LA NAIVECO DE PASTRO BROWN

de G. K. Chesterton

四六判 256 ページ, 上製

定價 3 圓 30 錢, 送料 10 錢

〔Populara Esperanto-Biblioteko 第 14 篇〕稀代の怪盜に導かれて無人の草原に來たときブラウン師はどうして世界一の名探偵を、そこへおびきよせてみたか。警視總監邸における奇々怪々な殺人、ブラウン師は氣が狂つたのか——こんな意外な犯人がまたとあらうか。スリルとユーモアにとんだ短篇探偵小説 12 篇。

再着書

PLENA VORTARO 定價 6 圓 送料 12 錢

輸入しても輸入しても忽ち賣切れる。またも賣切れぬうちすぐ。Plena Vortaro を持たなければ恥辱です。

EDINBURGH ESPERANTO POCKET DICTIONARY

定價 2 圓 50 錢, 送料 6 錢

エス英, 英エスを一冊にまとめた, もつとも手頃な, しかも内容が新しく, 語數豊富な, 信用できる辭書としてなだかい本書も, 長らく品切れで御迷惑をかけてゐましたが, 今回やつと少部數入荷しました。

Privat: KARLO 定價 60 錢 送料 3 錢 今回は多數入荷。中等講習に御利用ください。

Waad: ESPERANTA LITERATURO 1 圓 50 錢 送料 3 錢

エスペラント文學の理論, 原作者紹介, 名著梗概等, エスペラント文學の一般をつかむにもつとも便利な著書。試験問題集つき。

ESPERANTO POR INFANOJ 定價 1 圓 35 錢 送料 3 錢

NOVA TESTAMENTO 50 錢, 布裝 1 圓, 1.50 圓, 送料 3 錢
革裝 2.20 圓, 4.50 圓, 送料 13 錢

—— 詳細内外エス書圖書目錄お申込み次第送呈 ——

定價 円 角

エスペラント 捷徑	多少外國語素養ある者のため最良の獨習書…	0.50	6
エスペラント 講座	外國語を知らぬ人のため最良の獨習講義録…	0.50	6
新撰エス和辭典	語數豊富, 譯語正確, 携帶至便…	上 0.80	3 並 0.60 6
新撰和エス辭典	見出語數6萬, 出典明示, 附録豊富, 印刷鮮明…	2.50	6
新撰エス文手紙の書方	書簡百科辭書の觀, 例文豊富, 四六判 370 頁…	1.20	10
エスペラント日記の書方	365日, 1日1文例, 社會萬般の生活記録, 譯註付	1.20	9
エスペラント講習用書	……………	0.30	3
エスペラント初等讀本	……………	0.30	3
エスペラント童話讀本	……………	0.20	3
ザメンホフ讀本	ザ著作拔萃 ……全3卷, 各卷 0.20	3 合卷 0.50	6
エスペラント醫學文範	醫學論文の好模範, 醫學生の講習會に最好適	0.40	3
エスペラント發音研究	エス語發音上の疑問を氷解す ……	0.30	3
エスペラント文例集	重要語 720 の文例 ……	0.80	6 カード 1.50 14
點字エス文法と小辭典	……………	1.00	6
リングヴィ・レスポンドイ	ザ博士の言語上の解答を蒐む必備の書 ……	0.50	3
國語の擁護を論じて國際語に及ぶ	……………	0.20	3
言語學と國際語	スビリドヴィッチの新言語理論 ……	0.70	6

エスペラント文庫

1. ザメンホフの生涯	……………	0.40	6
2. 國際通信の常識	……………	0.50	3
3. 世界語の歴史	……………	1.50	9
4. エスペラントの會話	……………	0.40	3

エスペラント對譯詳註叢書

1. マテオ・ファルコネ	……………	0.30	3
2. ハイネ詩集	……………	0.30	3
3. 魔法使	……………	0.30	3
4. 代理通譯	……………	0.30	3
5. 愛あるところ神あり	……………	1.50	6
6. レイモント短篇集	……………	0.30	3
エスペラント童話集	「エス童話讀本」の對譯脚註篇 ……	0.60	6

エスペラント文藝讀本

1. スラヴ篇	……………	0.25	3
2. フランス篇	……………	0.30	3
3. 沙翁悲劇篇	……………	0.25	3
5. 北歐篇	……………	0.30	3

エスペラント書き文獻

惜みなく愛は奪ふ	有島武郎の傑作 ……	上 1.00	並 0.75 6
中村精男博士遺稿	原作科學論文, 文學作品の翻譯等 ……	0.70	6
佐々城松榮遺稿集	原作對話, 翻譯文學等 ……	0.80	6
綠葉集	伊井迂著原作詩と詩歌俳句等の翻譯 ……	0.80	6
日本書紀	I 神代, 神武天皇紀; II 綏靖天皇紀—應神天皇紀 各	1.20	9
ヴェルダ・カルト	……………	1.00	6
海神丸 野上彌生子	……………	0.40	3
骸骨の舞踏 秋田雨雀劇曲三篇	……………	0.40	3
佛說阿彌陀經 漢譯對照	……………	0.15	3
日本民族の起源	……………	0.10	3
大學中庸	……………	0.5 並 0.60	6
日本小史	……………	0.20	3
東洋の俠血兒 長谷川伸	……………	0.45	6
倫敦塔 夏目漱石	……………	0.15	3
霧の中 山本有三	……………	0.15	3
日本刀劍鑑	……………	0.15	3
孝經	……………	0.30	3

JUBILEA KONGRESSO 見聞記 八木日出雄

エ
ス
ペ
ラ
ン
ト
十
月
號

エスペラント發表五十周年を祝ふ歴史的記念大會——エスペラント發祥の地に開かれたこの大會の、これは迅速詳細な報告。大會副議長として活躍した八木教授が印象なほなまなましい大會最後の日、スカンヂナヴィアへの旅出の匆卒の間に、特に本誌のためによせられた堂々 20枚の見聞記。大會寫真入り。

彼が殺したか 浅田 一

ある朝離座敷に發見された老盲女の怪死體。果然、醫師 A, B は、これを他殺と鑑定し、C 教授は、これを裏書きした。彼女の扶養者は被疑者として收容された。浅田博士は、死亡診斷書の周到な検討の後、他殺説を取るにたらぬ俗論とし、敢然これを自殺と斷定した。自殺説の根據は何か。見よ、人道愛と學的良心に烈々と燃える文字を！

旅 順 港 ダニエル・ダリュウ扮するところの
日露混血兒ユキとウォブリック
が演ずるロシア海軍士官との夫婦愛の悲劇。二百三
高地に翻繚と日章旗がひるがえるとき妻は間諜として
刑場に曳かれ、夫は祖國の名譽のため旅順港脱出
を企てて成らず、乗艇を自沈せしめる。これに配するに
冷血氷の如き敵將を畏敬せしめる忠勇義烈の日本士官あり、秋を飾るトビス映畫の物語。

Paris の思出 池川 清 前置詞略解・Kun Sen

小坂 狷二
Permesi-Pardoni 倉地 治夫

オクスフォード・シェクスピア州 萬澤 まき子
オクスフォードに来て「大學はどこか」とたづねるのは、およそ意味ないことです。詳註、譯文つき、初等讀み物。

規約の條文 (和文エス) 三宅 史平 (譯 講 評)

海外文通者への注意 (時節がら文通者はぜひ)

エスペラント運動現状鳥瞰・イギリス

質疑應答・讀書案内・エスペラント界の新聞

エスペラント十一月號

十月十二日出來

——主要記事——

JUBILEO まで
明治大正昭和大會風俗史
映畫物語・ひめごと
死と假死 浅田一
パリからロンドン
へ 池川清

そのほか例月どほり
記事寫眞滿載

20 錢 送料 1 錢

財團 法人 日本エスペラント學會

20 錢・送料 1 錢 舊號見本 10 錢

昭和十二年九月二十日
昭和十二年十月一日發行
ラ・レヴ・オ・オリエンタ(エスペラント研究)第十八年第十號

定價廿錢(送料二錢)

編輯印刷
兼發行 人

財團 法人 日本エスペラント學會
右代 大井